

エクアドル国
農牧畜産漁業省 (MAGAP)

エクアドル国
シエラ地域における貧困削減のための
小規模農家支援体制再編計画調査
ファイナルレポート
資 料

平成 22 年 9 月
(2010年)

独立行政法人 国際協力機構
農村開発部

委託先
株式会社 オリエンタルコンサルタンツ
株式会社 三 祐 コ ン サ ル タ ン ツ

農 村
J R
10-63

エクアドル国
農牧畜産漁業省 (MAGAP)

エクアドル国
シエラ地域における貧困削減のための
小規模農家支援体制再編計画調査
ファイナルレポート
資 料

平成 22 年 9 月
(2010年)

独立行政法人 国際協力機構
農村開発部

委託先
株式会社 オリエンタルコンサルタンツ
株式会社 三 祐 コ ン サ ル タ ン ツ

資料の内容

資料 1 : ワーキンググループ

- 1.1 第一回会議
- 1.2 第二回会議
- 1.3 第三回会議
- 1.4 第四回会議
- 1.5 第五回会議
- 1.6 第六回会議
- 1.7 第七回会議

資料 2 : 分科会

- 2.1 第一回分科会
- 2.2 第二回分科会
- 2.3 第三回分科会

資料 3 : 小農支援機関の現状

資料 4 : アンケート調査結果

- 4.1 調査概要
- 4.2 対象位置図
- 4.3 質問票
- 4.4 集計結果

資料 1

ワーキンググループ

第 1 回会議	平成 21 年 3 月 26 日
第 2 回会議	平成 21 年 5 月 27 日
第 3 回会議	平成 21 年 6 月 22 日
第 4 回会議	平成 21 年 10 月 7 日
第 5 回会議	平成 21 年 10 月 26 日
第 6 回会議	平成 22 年 4 月 15 日
第 7 回会議	平成 22 年 7 月 15 日

目 次

	<u>ページ</u>
1.1 第一回会議.....	資料 1- 1
1.1.1 プログラム.....	資料 1- 1
1.1.2 参加者名簿.....	資料 1- 2
1.1.3 配付資料.....	資料 1- 3
1.2 第二回会議.....	資料 1- 8
1.2.1 プログラム.....	資料 1- 8
1.2.2 参加者名簿.....	資料 1- 9
1.3 第三回会議.....	資料 1-10
1.3.1 プログラム.....	資料 1-10
1.3.2 参加者名簿.....	資料 1-11
1.3.3 配付資料.....	資料 1-12
1.4 第四回会議.....	資料 1-16
1.4.1 プログラム.....	資料 1-16
1.4.2 参加者名簿.....	資料 1-17
1.4.3 配付資料.....	資料 1-18
1.5 第五回会議.....	資料 1-24
1.5.1 プログラム.....	資料 1-24
1.5.2 参加者名簿.....	資料 1-25
1.5.3 配付資料.....	資料 1-26
1.6 第六回会議.....	資料 1-33
1.6.1 プログラム.....	資料 1-33
1.6.2 参加者名簿.....	資料 1-34
1.6.3 配付資料.....	資料 1-35
1.7 第七回会議.....	資料 1-51
1.7.1 プログラム.....	資料 1-51
1.7.2 参加者名簿.....	資料 1-52
1.7.3 配付資料.....	資料 1-53

第1回ワーキンググループ会合

プログラム

日時: 2009年3月23日(月曜日)

内容:

時間	機関	発表者及び担当	内容
09:00 - 09:25	国際協力局	Ing. Irene Schuldt	あいさつ. 会議の目的.
09:25 - 10:10	JICA 調査団員	Ing. Nagai Kazuo	インセプションレポートの説明
10:10 - 11:45	国際協力局、JICA 調査団 および参加者		小農支援のあるべき姿に対するフリ ートーキング
11:45 - 12:25	JICA 調査団員	Ing. NAKAMURA	技術移転セミナー (ニカラグアの事例紹介)

議事録

第1回のワーキング・グループは、以下の目的で実施した。

1. 調査内容と方法をワーキング・グループの各委員に説明して調査に対する理解を得ること、
2. 今後調査の中で数回のワーキング・グループ会議を実施することを説明し、それぞれの会議で概ね話し合われるテーマを説明すること、
3. 今後ワーキング・グループを継続する上で、お互いが調査に対してどのように考えているか、相互理解を深めること。このために各人が小農支援に対して持っているイメージを話し、相互理解の一助とすること。
4. そして、開発調査として、技術移転を今後継続的に実施していきたいという、山下専門家からの問い掛けにより、JICA 調査団の各専門家がこれまでに経験してきた事例を紹介する。

経緯:

1. 調査に対する理解は得られた。
2. 事例に対しては、エクアドルでも十分に参考になる、という意見が出された。
3. 次回は、縦割り行政の中で、それぞれ他セクターで小農支援のために何をやっているかの理解が足りないことから、他セクターで実施中の優良プロジェクトを紹介する、という方針を説明して会議を終えた。

第一回ワーキンググループ会議参加者名簿

機関名／所属場所／部署		氏名	役職	
MAGAP	キト	国際協力局 Cooperacion Internacional	Irene Schuldt Hector Jaramillo Martha Naranjo María A. Moscoso Mauricio Rivera	Ing. Directora Lic. Técnico Sra. Secretaria Dra. Tecnica Teni. Técnico
		農村開発 Desarrollo Rural	David Espinoza	
		計画次官室 Subsecretaría de la Planificacion	Pablo Erazo	Ing.
			Marcelo Torres	Dr. Coordinador Planificación para el Desarrollo Agropecuario
		畜産振興次官室 Subsecretaría Fomento Ganadero	Estuardo Villagómez	Dr.
	トウングラウア	トウングラウア県事務所 Direccion Provincial de Tungurahua	Fabian Valencia Tamayo	Ing. Director
	INAR	キト	Fernando Herrera	
			Viviana Ortiz	Ing. Esta trabajando en la provincia de el Oro
INCCA	キト	Luis Oña	Dr. Técnico Seguimiento y Evaluación	
INDA	キト	Ivone Herrera	Dra. Asesora de la Dirección Ejecutiva	
INIAP	キト	Cristina Iglesias	Ing. Coordinadora	

エクアドル国 シエラ地域における貧困削減のための 小規模農家支援体制再編成計画

2009年2月

JICA調査団
MAGAP 国際協力局

1

対象地域



調査の背景

- **現状**
多くの貧困小農がシエラ地域に済み、生産性の低い小規模農業を営んでいる。
- **小農支援方針（農業牧畜漁業省）**
 - ・農業サービスに対するアクセスの改善
 - ・国、民間の農業サービスの再編成
 - ・様々なレベルからの開発計画の策定、等

3

- **営農支援サービスの現状**
農業サービスが有料 ->
支援へのアクセスが困難
ノウハウ、スタッフ、資金の不足 ->
効果的に農業サービスを提供できていない
- ➡
- 効率的・効果的な小規模農家支援の必要性 -

4

調査の目的

- 農業の生産性を向上させるための -
- 各県別農業支援体制再編成計画を策定し、
- 中央及び地方政府による小規模農家支援のあり方を提案する。
- そのプロセスを通じてカウンターパートの開発計画のための調査及び立案能力の向上を図る。

5

調査対象地域

- 資料調査の対象:シエラ地域に属する10県
カルチ県、インバブラ県、ピチンチャ県、コトパクス県、トゥングラウア県、ポリーバル県、チンボラソ県、カニヤール県、アスアイ県、ロハ県
- 現地調査の対象:10県の中の次の4県
コトパクス県、トゥングラウア県、ポリーバル県、チンボラソ県

6

調査期間と調査の範囲

第1年次

(2009/02 -> 2009/10)

1. 小農対象の農業支援体制の現況分析
2. 農業支援に対する小農のニーズ把握

第2年次

(2010/02 -> 2010/07)

3. 地方農村部の小農に必要な農業技術の特定
4. 小農対象の政府の農業支援体制の再編計画の作成

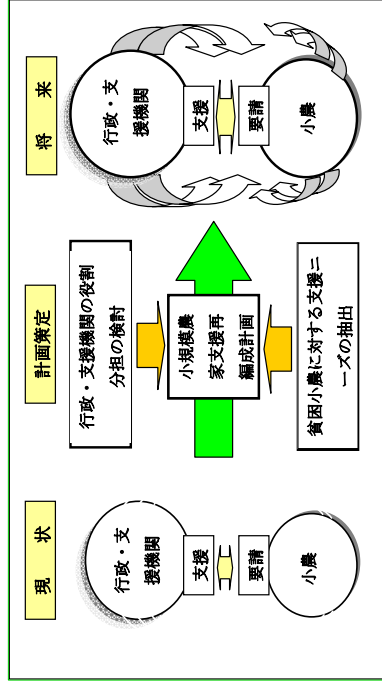
7

調査実施及び関連機関

- 主幹のカウンターパート:
エクアドル国農業牧畜漁業省(MAGAP)
- 関係機関:
国立自治農牧研究所(INIAP)、
国立農民訓練協会(INCCA)、
国立拓殖銀行(BNF)、
コトパクス県政府、トゥングラウア県政府、
ポリーバル県政府及びチンボラソ県政府

8

調査計画概念図



10

調査実施の基本方向

1. ワークショップを通じた的確な貧困小農のニーズ把握

- 問題分析の中心課題：「農牧業の生産が低い」
- ◆ 集落の農業生産に係わるプロフィール（農民組織、灌漑システム、農業支援など）
- ◆ 参加者分析（参加者毎の耕作面積、栽培作物、牧畜生産物など）
- ◆ 問題分析
 - 支援機関などの専門家が参加 -

11

2. 小農のレベルに応じた効率的・効果的なサービスの提供方法

- 「農牧業支援サービス」
- 住民に近く、小さく、低いレベルから段階的に開始し、行政と一緒に活動する、あるいは、農民組織を通じて活動することで便益が確実に貧困小農の手に入るような

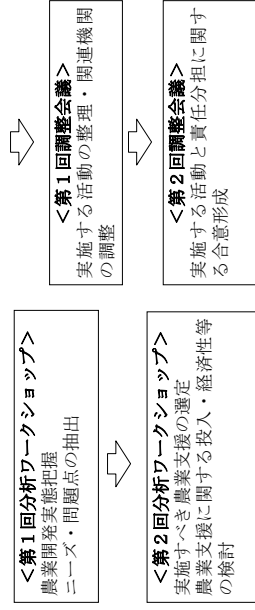
12

3. 支援機関の能力と関連制度を考慮した 農牧業支援サービスの検討・選定

- 法制度面：事業実施の前提条件
- 技術面：現在の技術水準で対応可能なサービスの基準とする
- 人材面：現在の支援機関の能力を前提
- 資金面：現在の予算内で実施可能な支援サービスの基本
- 組織間調整：MAGAPと対象となる支援機関を交えた調整

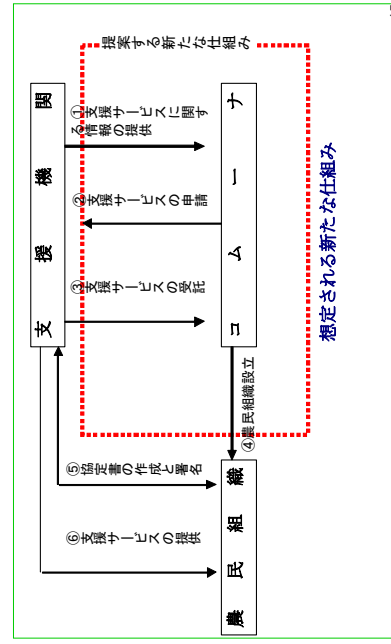
13

4. ワークショップ協議を通じた実効性の高い再編計画の策定



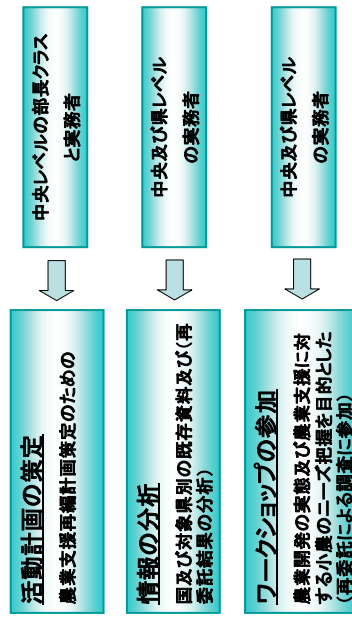
14

5. 普及支援の受け手の見直し

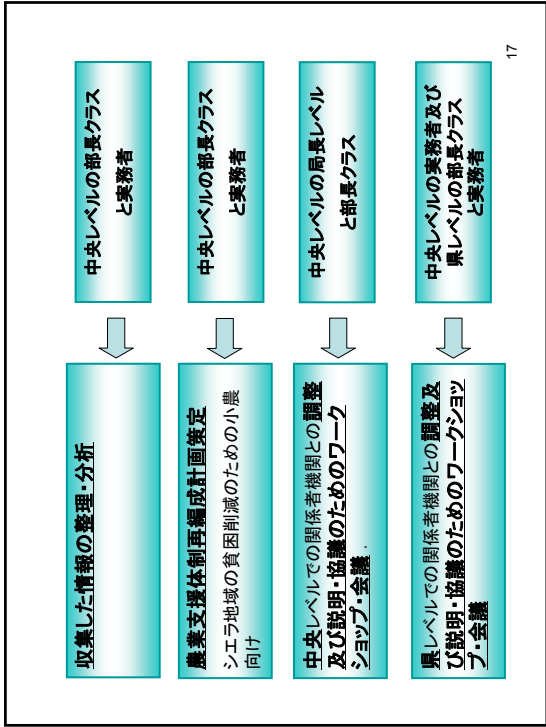


15

運営面の基本方針 共同作業を通じたカウンタートパートの能力向上



16



ありがとうございました。

第2回ワーキンググループ会合

プログラム

日時: 2009年5月27日(水曜日)

内容:

時間	機関	発表者及び担当	内容
09:00 - 09:25	国際協力局 JICA 調査団員	Ing. Irene Schuldt Ig. Nagai Kazuo	あいさつ. 会議の目的.
09:25 - 10:10	MAGAP 畜産振興次 官室	Dr. Marcelo Torres Ing. Estuardo Villagomez	優良案件のプレゼンテーションと 解説 質疑応答
10:10 - 11:00	INIAP	Ing. Fausto Merino	優良案件のプレゼンテーションと 解説 質疑応答
11:00 - 11:20	休憩		
11:20 - 11:45	MAGAP 農業振興次 官室	Ing. David Espinoza	優良案件のプレゼンテーションと 解説 質疑応答
11:45 - 12:25	INCCA	Ing. Franklin Rivera	優良案件のプレゼンテーションと 解説 質疑応答
12:25 - 13:20	昼食 (調査団の提供による)		
13:20 - 13:50	INAR	Ing. Viviana Ortiz Ing. Ximena Rojas	優良案件のプレゼンテーションと 解説 質疑応答
13:50 - 14:20	BNF	Ing. Santiago Tello	優良案件のプレゼンテーションと 解説 質疑応答
14:20 - 14:30	国際協力局 JICA 調査団員	Ing. Nakamura Akira	第2回会合の謝辞 第3回ワーキンググループ会合に ついて

第二回ワーキンググループ会議参加者リスト

機関名／所属場所／部署		氏 名		役 職		
MAGAP	Quito	国際協力局 Cooperacion Internacional	Irene Schuldt	Ing.	Directora	
			Hector Jaramillo	Lic.	Técnico	
			María A. Moscoso	Dra.	Tecnica	
			Mauricio Rivera	Teni.	Técnico	
	Quito	農村開発 Desarrollo Rural	David Espinoza			
			計画次官室 Subsecretaría de Planificacion	Pablo Erazo	Ing.	
			畜産振興次官室 Subsecretaría Fomento Ganadero	Marcelo Torres	Dr.	Coordinador Planificación para el Desarrollo Agropecuario
	Tungurahua	トングラウア県事務所 Direccion Provincial de Tungurahua	Fabian Valencia Tamayo		Ing.	Director
			シエラ次官室 Subsecretaria Regional de la Sierra	Angel Vaca		Ing.
	BNF	Quito	Monica Ruiz		Ing.	Técnica
Santiago Tello			Econ.			
Gino Caicedo			Econ.			
Consejo Provincial	Tungurahua	Fernando Herrera				
INAR	Quito	Lenin Tobar		Econ.	Jefe de Fortalecimiento Organizacional	
		Viviana Ortiz		Ing.	Esta trabajando en la provincia de el Oro	
		Ximena Rojas		Ing.	Directora de Desarrollo y Fortalecimiento	
INCCA	Quito	Franklin Rivera		Ing.		
		Luis Oña		Dr.	Técnico Seguimiento y Evaluación	
INDA	Quito	Ivone Herrera		Dra.	Asessora de la Dirección Ejecutiva	
INIAP	Quito	Cristina Iglesias		Ing.	Coordinadora	
		Fausto Merino		Ing.	Director Nacional Transferencia	

第 3 回ワーキンググループ会合

プログラム

日時: 2009年6月22日(月) 09:30 から 14:20 まで
内容:

時間	内容	発表者及び担当
09:30 - 09:35	開会の辞、会議目的	国際協力局 及び ICA 調査 団員.
09:35 - 09:40	参加者の紹介、プログラムの紹介	国際協力局
09:40 - 10:10	優良案件のプレゼンテーション、質疑応答	シエラ地域次官室
10:10 - 10:40	プロGRESSレポートのプレゼンテーション 質疑応答	JICA 調査団員
10:40 - 10:50	休憩	
10:50 - 11:10	小規模生産者のニーズを確認するために関係 機関により使用されている現在のメカニズムの プレゼンテーションおよびこのプロセスを改善 する新しいアイデアの提案	INIAP
11:10 - 11:30		INAR
11:30 - 12:00	技術革新システムおよびラテンアメリカの農 業普及	JICA 調査団員
12:00 - 12:10	調査計画および第 4 回ワーキンググループ会 議	国際協力局 及び ICA 調査 団員.
12:10 - 12:20	閉会の辞	国際協力局 及び ICA 調査 団員.
12:20 - 13:00	昼食 (調査団の提供による)	
13:00 - 13:35	林業への取り組み	Ing. Shingi Koto
13:35 - 14:20	ピノン松の活用による貧困削減のためのプロ ジェクト	Ing. Takashi Fujita

LISTA DE LOS CONTRAPARTES Y SUS PARTICIPACIONES DE TERCERA REUNION DE GRUPO DE TRABAJO

INSTITUCIÓN/LUGAR/SECTION		NOMBRE	CARGO	
MAGAP	Quito	Cooperacion	Hector Jaramillo	Lic. Técnico
	Quito	Internacional	Mauricio Rivera	Teni. Técnico
	Quito	Desarrollo Rural	David Espinoza	
	Quito	Subsecretaría de Planificación	Pablo Erazo	Ing.
	Quito	Subsecretaría de Planificación	Marcelo Torres	Dr. Coordinador Planificación para el Desarrollo Agropecuario
	Quito	Subsecretaría Fomento Ganadero	Estuardo Villagómez	Dr.
	Quito	Subsecretaría de Fomento Agrícola	Tereza Jaque	Lic. Asesora
	Tungurahua	Dirección Provincial de Tungurahua	Fabian Valencia Tamayo	Ing. Director
Chimborazo	Subsecretaría Regional de la Sierra	Angel Vaca	Ing. Coordinador	
BNF	Quito	Monica Ruiz	Ing.	Técnica
		Santiago Tello	Econ.	
		Gino Caicedo	Econ.	
INAR	Quito	Fernando Herrera		
		Lenin Tobar	Econ.	Jefe de Fortalecimiento Organizacional
		Viviana Ortiz	Ing.	Esta trabajando en la provincia de el Oro
		Ximena Rojas	Ing.	Directora de Desarrollo y Fortalecimiento
INCCA	Quito	Franklin Rivera	Ing.	
		Luis Oña	Dr.	Técnico Seguimiento y Evaluación
INDA	Quito	Ivone Herrera	Dra.	Asesora de la Dirección Ejecutiva
INIAP	Quito	Cristina Iglesias	Ing.	Coordinadora
		Fausto Merino	Ing.	Director Nacional Transferencia

エクアドル国
シエラ地域における貧困削減のための
小規模農家支援体制再編成計画

プログレスレポート

2009年6月

株式会社オリエンタルコンサルタンツ
株式会社三祐コンサルタンツ

対象地域



調査期間と調査の範囲

第1年次

(2009/02 -> 2009/10)

1. 小農対象の農業支援体制の現況分析
2. 農業支援に対する小農のニーズ把握

第2年次

(2010/02 -> 2010/07)

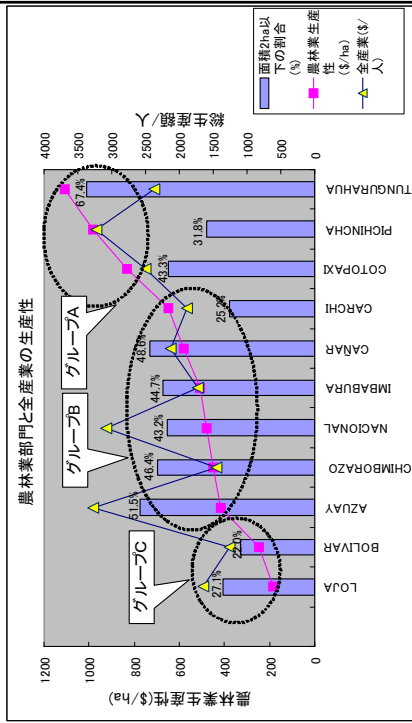
3. 地方農村部の小農に必要な農業技術の特定
4. 小農対象の政府の農業支援体制の再編計画の作成

プログレスレポートの内容

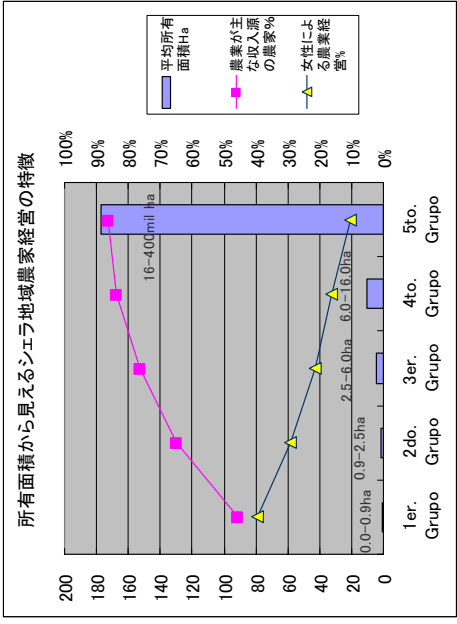
1. シエラ地域の貧困小農の現状
2. 貧困小農の開発に関する、新憲法、制度
3. 小農支援組織
4. 貧困小農対策プラン、プログラム、プロジェクト

貧困小農の現状(1):

県民一人当たり総生産高、1ha当り農業生産高から見たシエラ地域の特徴



貧困小農の現状(4): 農業経営の特徴



貧困小農の開発に関する新憲法、制度

- ◆ **第281条:**
 - 食料主権は、国の戦略目標であり、義務である。
- ◆ **第282条:**
 - 国家基金は農民に対して平等なアクセスを規定する。
 - 水や水源の買い占め、土地の集中を禁止する。
 - 灌漑用水の使用と管理を規定する。

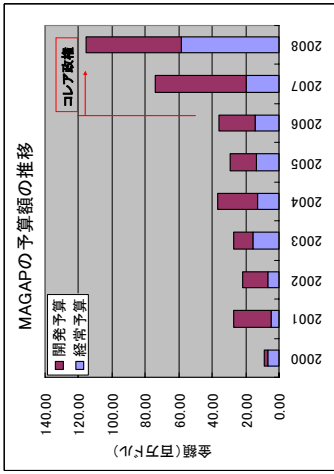
政策・国家計画

- ◆ **国家開発計画2007-2010**
 - 憲法に掲げられた「よりよい生活」の実現に向け、人間開発を基本としている。
- ◆ **国家農業政策2007-2020**
 - 10年後を目標に高生産性かつ競争力のある連帯的な農業を成立させ、国の食料安全保障を確立する。
- ◆ **優先作物政策2007-2010**
 - 食料安全保障に関する作物政策および作物別増産方策。

小農支援組織

● 農牧水産漁業省 (MAGAP)

コレア政権発足後、新たな政策を打ち出し、これに伴い予算等の拡充が行われている。



小農支援組織

- 国家灌漑庁 (INAR)
- 国家農地開発庁 (INDA)
- 国立自治農業研究所 (INIAP)
- 国立農民研究機構 (INCCA)
- 国立拓殖銀行 (BNF)
- 県、市 (ムニシピオ)、パロキア
- 経済社会参画省 (MIES)
- NGOs

貧困小農対策

プラン、プログラム、プロジェクト

◆ 農牧生産再活性化政策-1

- MAGAPが打ち出した今後の農牧業振興の中心となるプラン -

- 目的: 1) エクアドル農業をより国内外市場で競争力の強い産業に育成する、2) 小中農の農業生産を強化し、国民の基本食料生産を確保する。
- 「小中農の農業生産を強化し国民の基本食料生産を確保する」を達成するために、各種支援策が導入され、支援策毎にMAGAP関連機関の役割が課されている。計画では関連機関強化とともに連携の強化も重要視している。

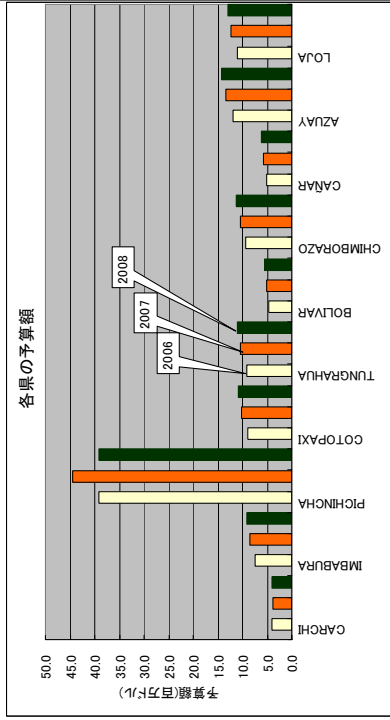
貧困小農対策

プラン、プログラム、プロジェクト

◆ 農牧生産再活性化政策-2

- 基礎作物の改良 INIAP
- 農民の組織化 MAGAP (DOA)
- 農民への融資 BNF
- 生産基盤整備 INAR、INDA
- 技術支援 INCCA
(病虫害対策等の専門技術はINIAP)

各県の予算額の推移



ご清聴ありがとうございました。

カントン内で実施中のプロジェクト(143)

個別活動項目	件数	個別活動項目	件数
かんがい	17	ミミズ堆肥	5
栽培技術	16	森林保全	5
販売	14	乳牛	4
集出荷場	9	人工授精	4
アグロフォレストリー	9	ジャガイモ	4
クイ	8	環境保全型農業	4
植林苗生産	7	流域管理	4
飼養技術	6	ごみ処理(環境保全)	4
家庭菜園(含む果樹)	5	研修/起業/融資	4

第四回ワーキンググループ会合


プログラム

- 目的: -ワーキンググループの共有フレームワーク
-優良な事例として小規模生産者向けの「農牧支援サービス」の共有プロジェクト
-小規模生産者向けの農牧支援サービスの改善確認
- 場所: Colonial メゾン/ Querrida カフェ
Tarqui 514 entre Snchez y Quito frente al Consejo Provincial de Cotopaxi Snchez Tarqui
- 日時: 2009 年 10 月 7 日 (水曜日)
- 内容:

時間		活動	発表者及び担当
開始	終了		
09:30	09:40	開会の言葉	MAGAP 国際協力局
09:40	10:00	ワーキンググループのフレームワークのプレゼンテーション	Sierra シエラ地域次官室, MAGAP
10:00	12:30	優良な事例として小規模生産者向けの「農牧支援サービス」プロジェクトの 4 プレゼンテーション (各プレゼンテーション: 25 分、質疑応答: 10 分)	MAGAP 地方局 Chimborazo 地方議会 Chimborazo の INAR Riobamba の BNF (4 機関の調整による)
12h30	13:30	昼食	
13:30	14:45	小規模生産者向けの支援サービスの改善を確認するための問題系図のワークショップ	MAGAP 及び JICA 調査団
14:45	15:00	閉会の辞	MAGAP 及び JICA 調査団

第四回ワーキンググループ会議参加者名簿

機関名/所属場所/部署		氏名	役職		
MAGAP	Quito	国際協力局 Cooperación Internacional	María A. Moscoso	Dra.	Tecnica
	Cotopaxi	コトパクス県事務所 Dirección Provincial de Cotopaxi	Nervo Alban	Ing.	Técnico
			Víctor Fiallos	Ing.	Técnico
			Franklin Pilataxi	Ing.	
	Tungurahua	トゥングラウア県事務所 Dirección Provincial de Tungurahua	Fabian Valencia	Ing.	Director
			Rusvel Rios	Ing.	Coordinador
			Josué Salazar	Ing.	Coordinador
	Bolívar	ボリーバル県事務所 Dirección Provincial de Bolívar	Luis Rivera	Ing.	Director
			Rodolfo Camacho	Sr.	Técnico
			Edwin Lara	Ing.	Coordinador
	Chimborazo	チンボラソ県事務所 Dirección Provincial de Chimborazo	Alfredo Chuquimarca	Ing.	Técnico
			Carlos Bermeo	Sr.	Técnico
		シエラ次官室 Secretaría Regional de la Sierra	Angel Vaca	Ing.	Coordinador
	BNF	Cotopaxi	Victor Masapanta	Lic.	Gerente
Tungurahua		Irene Ropez	Ing.		
Bolívar		Claudio Solano	Ing.	Gerente	
		Juan Carlos Bravo	Ing.	Crédito	
		Leonor Medranda E.	Dra.	Crédito	
Chimborazo		Edison Carrillo	Ing.	Gerente	
	Alexandra Acaig Mesa	Ing.	Supervisora de Crédito		
Consejo Provincial	Cotopaxi	Santiago Díaz	Ing.	Técnico	
	Chimborazo	Juan Carlos Arellano	Ing.	Técnico	
INAR	Quito	Ramiro Naros	Ing.	Director de Planificación	
		Martha Cecilia Burgos	Econ.	Coordinadora	
		Ximena Rojas	Ing.	Directora de Desarrollo y Fortalecimiento	
		Hector Espinosa	Ing.	Planificación	
		Andrea Herrera	Ing.	Comunicación Social	
	Cotopaxi	Jessica Reinoso			
		Luis Salazar			
	Tungurahua	Patricia Nuñez	Ing.	Directora Regional	
	Chimborazo	Jorge Cevallos	Ing.	Desarrollo	
Wilson López		Ing.	Dirección Regional		
INCCA	Chimborazo	Mario Logroño	Ing.	Delegado Regional	
INDA	Quito	Galo Celdao	Ing.		
	Cotopaxi	Guillermo Sánchez Flores	Ing.		
	Tungurahua	Geovany Noboa	Econ.	Coordinador	
	Chimborazo	Karina Vega	Ing.	Directora Regional	
INIAP	Quito	Adrian Carrera	Ing.		
		Fernando Chávez	Ing.	Técnico VTC	
	Cotopaxi	José G. Camacho	Ing.	Coordinador UTT-C	
	Chimborazo	Pedro Llangari	Ing.		



Ministerio de Agricultura, Ganadería, Acuacultura y Pesca
Agencia de Cooperación Internacional de Japón

エクアドル国
シエラ地域における貧困削減のための
小規模農家支援体制再編成計画
第4回ワーキンググループ会議

農牧業開発の現状の活動を把握すると共に
小農のための農牧業支援の必要性を明確にするための調査

コトバクシ県ラタクンガ、2009年10月

プログラム

時間	内容	担当者
開始		
09:30	閉会の言葉	MAGAP国際協力局
09:40	ワーキンググループのフレームワークのプレゼンテーション	Sierraシエラ地域次官室、MAGAP
10:00	優良な事例として小規模生産者向けの「農牧支援サービスプロジェクト」のプレゼンテーション(各プレゼンテーション:25分、質疑応答:10分)	MAGAP地方局 Chimborazo地方議会 RiobambaのBNF (4機関の調整による)
12:30	昼食	
13:30	小規模生産者向けの支援サービスの改善を確認するための問題系図のワークショップ	MAGAP及びJICA調査団
14:45	閉会の辞	MAGAP及びJICA調査団

ワーキンググループの概要説明

- 背景
- JICA調査の目的
- JICA調査の対象地域
- JICA調査の実施期間
- 調査に関わる実施機関、関係機関
- JICA調査のコンポーネント
- ワーキンググループの活動の目的
- ワーキンググループの活動による期待される成果
- ワーキンググループの活動の参加者

背景

エクアドル国政府は、効率的・効果的な小農支援を実施するために、中央および地方政府による小農支援体制の再編成により農業サービスを改善するための協力を我が国に要請した。この要請に基づき、2008年2月から3月に国際協力機構（JICA）により事前調査が実施され、2009年2月18日からオリエンタルコンサルタンツの藤田 孝氏を団長とする調査が開始された。

調査はエクアドル国シエラ地域における貧困削減のための小農支援体制再編成計画を策定する。

JICA調査の目的

上位目標: 農牧生産性の向上

目的:

- シエラ地域における貧困削減のための小農支援体制の再編計画の作成
- 中央・地方政府にたいして農牧業支援のシステムの提案

JICA調査の対象地域

調査対象地域は以下に示すシエラ地域の10県を対象とする。

(1) 資料調査の調査対象地域

カルチ、インバブラ、ピテンチャ、カニヤール、アズアイ、ロハと下記の現地調査対象地域

(2) 現地調査対象地域

コトバクシ、トゥングラウア、ポリーバル、チンボラソ



JICA調査の実施期間

開始: 2009年2月

終了: 2010年6月

調査に関わる実施機関、関係機関

- 農牧漁業省 (MAGAP)
- 国立自治農牧研究所 (INIAP)
- 国家灌漑庁 (INAR)
- 国立農民研修機構 (INCCCA)
- 国家農地開発庁 (INDA)
- 国立勸業銀行 (BNF)

JICA調査のコンポーネント

- 中央レベルの政策等の現況把握
- 農業支援サービスの活動の現況把握
- MAGAP、関係機関、県政府からなるカウンターパートと共に実施するワーキンググループを通じた現況把握とその分析
- 小農支援体制再編計画の策定

ワーキンググループの活動の目的

小農への農牧業支援体制再編の提案に関する検討をワーキンググループの参加者を行う

ワーキンググループの活動による期待される成果

- 農牧政策とその実施の担当者を要する機関を明らかにする。
- 中央及び県レベルで、小農が生活するコミュニティの必要性とその現況を明らかにするとともに、調査方法を検討する。
- 中央および県レベルで、新たな支援システムの提案を検討する。
- 中央および県レベルの調整の下、各機関間の新たな支援システムを検討する。

ワーキンググループの活動の参加者


中央レベル:

MAGAPの国際協力局、シエラ次官室、計画局、農牧振興局、およびINIAP、INAR、INDA、INCCA、BNF。

県レベル:

MAGAPシエラ次官室、MAGAPのコトパクス、トゥングラウア、ポリマーバル、チンボラソンの県事務所、コトパクス、トゥングラウア、チンボラソンのINAR、INIAP、INCCA、INDA、BNFの各事務所・支所、支所、コトパクス、トゥングラウア、ポリマーバル、チンボラソンの県政府審議会

小農のための農牧業支援の範例
～4機関からの発表～



Ministerio de Agricultura, Ganadería, Acuacultura y Pesca
Agencia de Cooperación Internacional de Japón

エクアドル国

シエラ地域における貧困削減のための
小規模農家支援体制再編成計画

第4回ワーキンググループ会議

農牧業開発の現状を把握すると共に
小農のための農牧業支援の必要性を明確にするための調査

コトパクス県ラタクンガ、2009年10月

小農のための支援サービスの改善に関する
問題分析

JICA調査の概要

ワーキングシヨップの実施に関する背景として

上位目標	農牧生産性の向上
目的	シエラ地域における貧困削減のための小農支援体制の再編計画の作成 中央・地方政府にたいして農牧業支援のシステムの提案
コンポーネント	中央レベルの政策等の現況把握 農業支援サービスの活動の現況把握 MAGAP、関係機関、県政府からなるカウ ンターパートと共に実施するワーキンググ ループを通じた現況把握とその分析 小農支援体制再編計画の策定

ワーキングシヨップの概要

目的	小農のために、適切な農牧業サービスを推進するために主要な問題を明らかにする。
ワーキングシヨップのプロセス	<ol style="list-style-type: none"> ワーキングシヨップの実施方法の説明 ワーキングシヨップの実施 <ol style="list-style-type: none"> 農牧サービスの実施における関係者の把握 関係者の興味の明確化 関係者の基礎情報の把握(ミッション、役割、財政および人為的資源) 問題の明確化と問題系図の作成

ワークショップの結果

「小農へ農牧業支援が 行き届かない」 を中心問題とした 問題系図の作成

問題はどのように記述するのか？

- 具体的に示す。
- 否定的な状態を表す。
- 一つの問題を明らかにし、簡潔な文脈で示す。
- 文章として完結する内容を含む。
- 「不足や足りない」のような言葉を避ける。

問題系図をどのように作成するのか？

- 各グループにあらゆる関係機関から参加することが望ましい。
- 一グループ20人を上限とし、問題系図作成のために2-3グループに分ける。
- 問題分析の作成は30分とする。
- 問題の説明は30秒以内で説明できる内容（簡略化）する。

第5回ワーキンググループ会合


プログラム

- 目的:
- インテリムレポートの説明
 - 事例として小規模生産者向けの「農牧支援サービス」プロジェクトの紹介
 - 「小規模生産者に農牧支援が到達しない」問題を確認するための問題系図結果の探究
- 場所: MAGAP 5 階
- 日時: 2009 年 10 月 26 日 (月曜日)
- 内容:


時間		活動	発表者及び担当
開始	終了		
10:30	10:45	開会の言葉	MAGAP 国際協力局
10:45	11:30	インテリムレポートの説明	JICA 調査団
11:30	12:30	事例として小規模生産者向けの「農牧支援サービス」プロジェクトの紹介	チンボラソ県審議会 トゥングラウア県審議会 INCCA INIAP
12:30	13:30	昼食	
13:30	15:30	「小規模生産者に農牧支援が到達しない」問題を確認するための問題系図結果の探究ワークショップ	MAGAP 及び JICA 調査団
15:30	15:45	閉会の辞	MAGAP 及び JICA 調査団

第五回ワーキンググループ会議参加者名簿

機関名／所属場所／部署			氏名	役職	
MAGAP	Quito	Cooperación Internacional	Irene Schuldt	Ing.	Directora
	Quito	Cooperación Internacional	María A. Moscoso	Dra.	Técnica
MAGAP	Quito	Cooperación Internacional	Hector Jaramillo	Lic.	Técnico
MAGAP	Quito	Cooperación Internacional	Martha Naranjo	Sra.	Secretaria
MAGAP	Quito	Cooperación Internacional	Mauricio Rivera	Teni.	Técnico
MAGAP	Quito	Subsecretaría de Planificación	Pablo Erazo	Ing.	
MAGAP	Cotopaxi	Dirección Provincial de Cotopaxi	Rupay Egas		Asesor
MAGAP	Cotopaxi	Dirección Provincial de Cotopaxi	Franklin Pilataxi	Ing.	
MAGAP	Tungurahua	Dirección Provincial de Tungurahua	Fabian Valencia Tamayo	Ing.	Director
MAGAP	Tungurahua	Dirección Provincial de Tungurahua	Josué Salazar	Ing.	Coordinador
MAGAP	Tungurahua	Dirección Provincial de Tungurahua	Holger Vivanco	Ing.	Técnico
MAGAP	Bolívar	Dirección Provincial de Bolívar	Luis Rivera	Ing.	Director
MAGAP	Bolívar	Dirección Provincial de Bolívar	Edwin Lara	Ing.	Coordinador
MAGAP	Chimborazo	Dirección Provincial de Chimborazo	Victor Anguieta	Ing.	Director
MAGAP	Chimborazo		Angel Vaca	Ing.	Coordinador
MAGAP	Chimborazo		Mario Montenegro	Ing.	Director Técnico
BNF	Quito		Monica Ruiz	Ing.	Técnica
BNF	Cotopaxi		Victor Masapanta	Lic.	Gerente
BNF	Tungurahua		Santiago Revelo	Ing.	Créditos para perjudicados por el Vólcan Tungurahua
BNF	Bolívar		Claudio Solano	Ing.	Gerente
Consejo Provincial	Tungurahua		Manuel Ullauri	Lic.	Director de Producción
Consejo Provincial	Bolívar		Freddy Flores	Sr.	Técnico
Consejo Provincial	Bolívar		Sara Velóz	Sra.	Técnica de Planificación
Consejo Provincial	Chimborazo		Juan Carlos Arellano	Ing.	Técnico
Consejo Provincial	Chimborazo		Nestor Chavez	Ing.	Asesor
INAR	Quito		Martha Cecilia Burgos	Econ.	Coordinadora
INAR	Quito		Hector Espinosa	Ing.	Planificación
INAR	Tungurahua		Patricia Nuñez	Ing.	Directora Regional
INAR	Tungurahua		Marcelo Verázquez	Ing.	
INAR	Chimborazo		Jorge Cevallos	Ing.	Desarrollo
INAR	Chimborazo		Wilson López	Ing.	Dirección Regional
INCCA	Chimborazo		Mario Logroño	Ing.	Delegado Regional
INDA	Quito		Juan Herrera	Ing.	
INIAP	Quito		Adrian Carrera	Ing.	



Ministerio de Agricultura, Ganadería, Acuacultura y Pesca
Agencia de Cooperación Internacional de Japón



**PLAN DE REORGANIZACIÓN DE LOS SERVICIOS DE APOYO AGRÍCOLA,
DIRIGIDOS A LOS PEQUEÑOS AGRICULTORES
PARA LA REDUCCIÓN DE LA POBREZA
EN LA ZONA DE LA SIERRA DE LA REPÚBLICA DEL ECUADOR**
第5回WG資料

**El Estudio para “Conocer las actividades actuales del desarrollo agrícola
e identificar las necesidades de los servicios de apoyo agrícola
para los pequeños productores/productores.”**

Chimborazo, Septiembre 2009

議事内容

時間	内容	発表者
INICIO	FINAL	
10h30	開会の挨拶	MAGAP 対外協力局
10h45	インテリムレポートの説明	JICA 調査団
11h30	小規模生産者向けの「農牧支援サービス」プロジェクトの事例紹介	
12h30	昼食	
13h30	「小規模生産者に農牧支援が到達しない」問題を確認するための問題分析ワークショップ	MAGAP、JICA 調査団
14h45		
15h30	閉会の挨拶	MAGAP、JICA 調査団

内容

- 小農のニーズ
- 小農支援組織
- 小農支援の範囲
- 小農支援組織の方向性

1. 農民のニーズ(1) アンケート調査結果から見える小農の姿

- ・標高が高くなるにつれ、農家所得は低下する。
- ・県都からの距離の違いは、農家所得あまり影響を与えない。
- ・灌漑の有無は直接農業所得に繋がる。
- ・農家所得の半分が農外所得である。

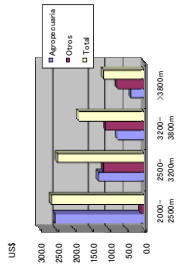
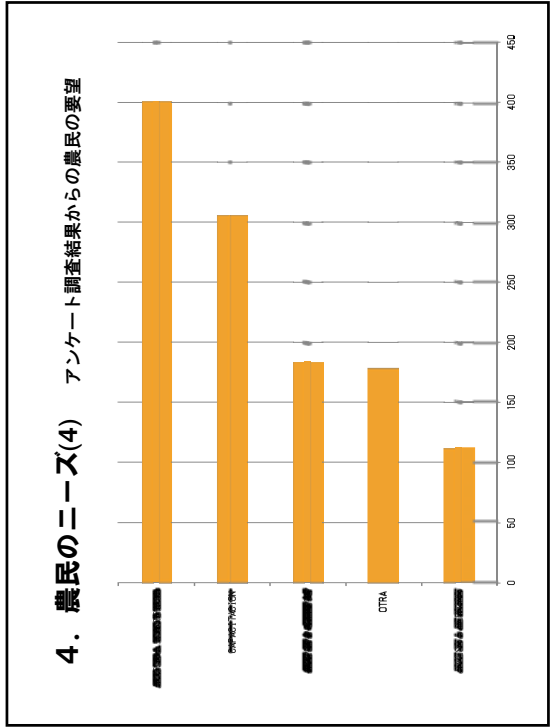
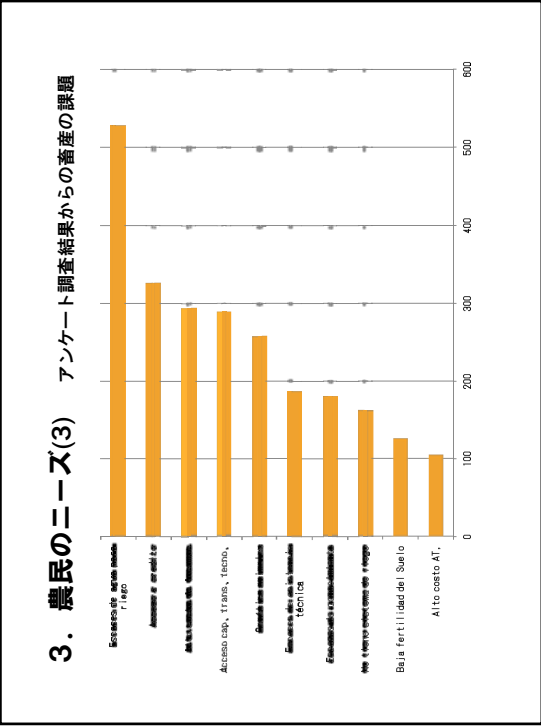
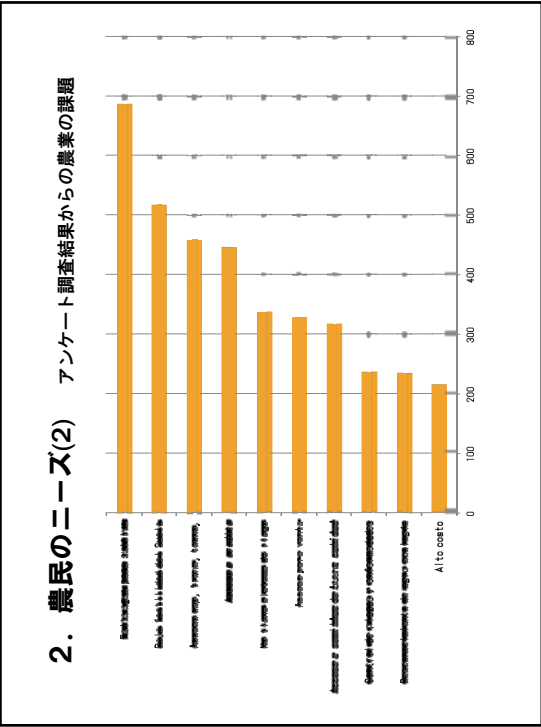


Fig. 2.2.2 Altura de Comunidad y Fuente de Ingreso por Mesa



- ### 5. 農民のニーズ(5) アンケート調査結果からの農民の要望の取りまとめ1
- 農業生産**
 灌漑: 必要な水の確保、知識・技術の習得
 土壌肥沃度: 有機肥料導入、輪作の実施
 優良種子: 保証種子導入、自家採取、伝統品種の活用
 病虫害: 知識の普及
 土地: 農業政策への期待
 - 畜産生産**
 灌漑: 必要な水の確保
 血統: 優良種の導入、人工授精
 粗飼料: 草地の拡大、牧草貯蔵施設
 技術: 安価な技術指導(獣医を含めて)

6. 農民のニーズ(6) 調査結果からの農民の要望の取りまとめ2

- 販売
 - 販売先：多様な販売システムの構築
 - 品質：農畜産物の品質向上、加工による高付加価値化
 - 生産者組織：農民組織の組織率の向上、脆弱性の克服
- 横断的課題
 - 農業研修・技術支援・補助制度(資材購入)・融資アクセス・農民組織など

7. 小農支援組織-1 MAGAP県事務所

・人員

表 MAGAP 専門別職員数

県	農業		畜産		社会開発		計
	農業	社会開発	畜産	社会開発			
Chimborazo	10	2	2	2	1	2	12
Cotopaxi	11	2	2	2	1	2	13
Bolivar	11	2	2	2	2	2	15
Tungurahua	22	4	4	4	4	4	30

・予算

POAIによる予算策定、要求、実施
 POAIは農牧セクター再活性化国家計画とMAGAP県事務所独自の計画に分かれる。
 チンボラソン県MAGAPでは前者約US\$95千、後者約US\$62千

8. 小農支援組織-2 県政府

- 人員
- 農牧プロジェクトおよび予算(チンボラソン県PPCH事業)

表PPCH事業予算と実施件数2008年

プログラム	プロジェクト数	予算(US\$)		その他 政、NGO、 国際機関	
		全体予算	県負担 受益者負担		
生産子ブーン	30	1,235,536	511,604	108,932	615,000
灌漑	35	1,183,232	832,329	66,570	284,333
農業	38	3,542,234	1,100,000	129,286	2,308,938
教育	22	950,183	881,943	53,240	15,000
保健・衛生	23	1,181,577	800,107	132,170	359,300
社会的弱者支援	26	940,238	554,832	212,733	172,673
流域管理	20	731,439	504,591	55,236	171,613
合計	207	10,017,895	5,282,753	776,436	3,956,706

9. 小農支援組織-3 市政府

- 人員
- 農牧プロジェクトおよび予算
Cotaha市プロジェクト (2008-2009)

市別の農牧開発技術者数

県	市	技術者数(人)		市	技術者数(人)		計
		農業	社会		農業	社会	
Cotopaxi	Latacunga	0	0	Granada	1	0	11
	La Aldea	0	0	Las Navas	0	0	
	El Tiro	0	0	San Juan	0	0	
	El Tiro	0	0	San Juan	0	0	
	San Juan	0	0	San Juan	0	0	
	San Juan	0	0	San Juan	0	0	
	San Juan	0	0	San Juan	0	0	
	San Juan	0	0	San Juan	0	0	
	San Juan	0	0	San Juan	0	0	
	San Juan	0	0	San Juan	0	0	
Tungurahua	Atacama	0	0	Atacama	1	1	11
	Atacama	0	0	Atacama	1	1	
	Atacama	0	0	Atacama	1	1	
	Atacama	0	0	Atacama	1	1	
	Atacama	0	0	Atacama	1	1	
	Atacama	0	0	Atacama	1	1	
	Atacama	0	0	Atacama	1	1	
	Atacama	0	0	Atacama	1	1	
	Atacama	0	0	Atacama	1	1	
	Atacama	0	0	Atacama	1	1	

区分

区分	プロジェクト数	件数	予算合計 (US\$)	予算合計 (US\$)	予算合計 (US\$)	1件あたり金額 (US\$)
農牧生産	146	24%	2,737,500	24%	683,250	21,828
灌漑	14	3%	1,415,000	3%	101,786	7,270
上下水道	85	19%	925,300	19%	10,886	128
教育	65	14%	691,784	14%	10,643	164
電化	6	1%	61,500	1%	10,250	1,708
保健・衛生	1	0%	0	0%	0	0
流域管理	166	37%	1,862,500	37%	11,200	67
計	450	100%	4,995,444	100%	111,011	45

10. 分野別小農支援-1 販売流通

- 中規模支援
 - ✓ 複数の農民グループを対象にした中規模のプロジェクト
 - ✓ 公共バス/トラックの運営や広域の集出荷場の整備
 - ✓ CADERSのプロジェクト方式の拡大
- ◆ 小規模支援
 - ✓ 山間部の貧困集落を対象にした小規模のプロジェクト
 - ✓ 小規模なCADERSプロジェクトの実施
 - ✓ 中規模支援で行うプロジェクトとの連携

11. 分野別小農支援-2 小規模融資

- ✓ 小農の小規模クレジットへのアクセス向上
- ✓ 小農への栽培技術支援のパッケージ化
- ✓ MAGAP、県政府との業務協力

BNFがCooperativa向けの融資を2010年1月から開始することは、小農への小規模クレジット拡大に期待が持てる。モニタリングを通じて、今後の規模拡大が望まれる。

12. 分野別小農支援-3 営農技術

- 栽培技術
 - ✓ 自家採取種子の保存の改善
 - ✓ 野菜の優良品種の導入
 - ✓ 傾斜地の適切な土地利用と栽培方法
 - ✓ 輪作体系、緑肥の導入検討
 - ✓ 環境保全型農業の促進
- 生計
 - ✓ 自然条件に合い栄養価の高い作物の普及・導入
 - ✓ 国内・国際市場で需要があり、収益性の高い作物の普及・導入
 - ✓ 農業経営改善研修
- 栄養
 - ✓ 家庭菜園における多品目野菜の栽培
 - ✓ 集落内栽培作物を使った料理研修
- コミュニティ組織
 - ✓ コミュニティ内部での普及コーディネーターの育成

13. 分野別小農支援-4 畜産技術

- パラモ地帯
 - ✓ 牛の肥育に関する飼料基盤の強化
 - ✓ 感染性疾患に対する予防
 - ✓ 畜産技術の知識不足
 - ✓ 流通販売の強化
 - ✓ 獣医普及員の巡回強化
- ◆ アンデス温帯・亜熱帯地帯
 - ✓ 家畜疾病に対する治療の近代化
 - ✓ 生乳処理加工場の整備
 - ✓ 飼育品種の改良
 - ✓ 獣医・普及員の巡回強化

14. 分野別小農支援-5 灌漑

- 灌漑効率向上のための灌漑施設の改修
- 漏水減少のための水路ライニング
- 灌漑システムの効率化を行い、受益面積の拡大
- 灌漑効率向上のための調査
- 施設改修が大きな割合を占める、新規システムの整備は少数

15. 分野別小農支援-6 土壌保全

- シェラ地域の小農の圃場では土壌性質を改善する必要がある。このために有機物の投入を推進する。
✓ 有機物の投入にあたっては、単位面積あたりの投入量の目標量を明らかにする。
- ✓ 有機肥料を集落単位でミンガの労働力などを利用し生産できるシステムを作る必要がある。
- ✓ 有機物の圃場投入に関するガイドラインおよびモニタリングシステムの構築。
- 土壌の物理的特性を損なうにくい耕作方法例えば不耕起栽培などの導入も、有機物の投入による土壌改良と平行して行う必要がある。
- カンカグアを農地として利用するには導入基準の設定および普及が必要である。

16. 分野別小農支援-7 ジェンダー

- 農地：
 - ✓ 男女間の平等な登記が実施されているかのモニタリングの実施。および目標値の設定
- 支援機関：
 - ✓ 先住民との言語障害の解消
 - ✓ 権利、自尊心、リーダーシップに関する研修の実施
 - ✓ 流通段階での先住民に対する不平等な扱いの解消
- 研修：
 - ✓ 法人格を有しない女性グループへの支援
 - ✓ 女性の労働に配慮した研修の実施
- 灌漑：
 - ✓ 施設運用の上での女性の不利な扱いの解消
- マイクロクレジット：
 - ✓ 融資の上での女性の不利な扱いの解消

17. 小農支援体制再編の方向 支援機関のポテンシャルと課題 (MAGAP県事務所)

ポテンシャル	<ul style="list-style-type: none"> • 各県概ね10名以上の農牧技術者が在籍している。 • 組織として小農支援の経験・知識がある。 • 農牧再活性化国家計画を実施している。 • 県MAGAP独自の活動を実施する余地がある。 • シェラ地域の農牧支援機関間のコーディネート機能がある。 • 国レベルでの農牧支援機関が存在し、応用力がある。
課題	<ul style="list-style-type: none"> • 現在の技術者数では県全域を十分にカバーできない (20%～30%)。 • 農牧再活性化国家計画を中心としてMAGAP本省の指示による業務が多く、技術者の能力を活かした県独自の活動が活発でない。 • 一部の県を除き、県政府、市政府との協働が低調である。 • 事業の計画・モニタリング・フィードバックを行うシステムが十分でない。 • シェラ地域のMAGAP県事務所間で技術・情報交流が十分と言えない。 • 関連機関間の情報交流が十分とは言えない。 • 技術者の継続教育システムが整っていない。

18. 小農支援体制再編の方向 支援機関のポテンシャルと課題（県政府）

ポテンシャル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算規模が県レベルでの支援機関では最も大きい。 ・ 県によるが、農業技術者が10名を超す。 ・ チンボソ県では、PPCH事業の生産チャームン、灌漑プロジェクトをそれぞれ年間約30件、約40件実施しており、1件あたりの平均予算は約US\$17,000、US\$24,000。 ・ トウングラワア県では、技術者の居ない市政府に技術者を提供している。 ・ 組織として小農支援の経験・知識を持っている。 ・ トウングラワア県では小農支援機関の調整を行っており、県開発が合理的なボトムアップ型となっている。 ・ ボリバル県では参加型開発予算編成を2009年よりを開始した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開発対象のコムニダは広い面積に分散しており、全県に対し開発を行うには予算・人員が限定的である。 ・ 開発プロジェクトの実施には積極的であるが、技術普及については明確な方針を持っていない。 ・ 新憲法でコーデイネーション機関として期待されているが、ツングラワア県を除き経験が無い。 ・ 市と政治的に協調がうまくいかない場合がある。 ・ 新憲法により今後灌漑施設の整備が県の役割となったが、経験・技術者が不在の県がある。 ・ 関連機関の情報が不足している。 ・ 関連機関の継続教育システムが整っていない。

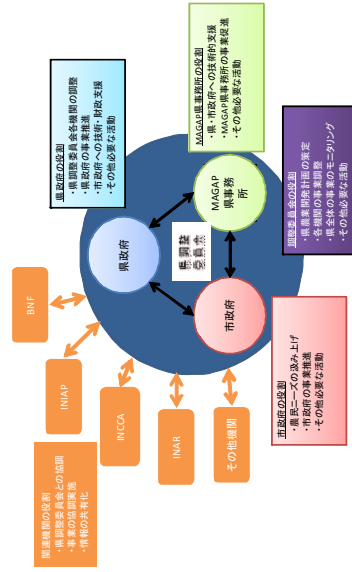
19. 小農支援体制再編の方向 支援機関のポテンシャルと課題（市政府）

ポテンシャル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 60%以上の市に農牧技術者が在籍している。 ・ コルタ市では、農牧開発、灌漑プロジェクトをそれぞれ年間約50件、約7件実施し、それぞれ平均予算は約US\$12,000、US\$10,000。 ・ 小農に最も近い実施能力がある機関である。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小農支援に関する明確な戦略を持たない市政府が多い。 ・ 市によっては、技術者が不在である。 ・ MAGAP等と比較すると技術者のレベルが十分とは言えない。 ・ 農牧開発に関してMAGAP、県政府と比較すると十分な経験知識があるとは言えない。 ・ 県と政治的に協調がうまくいかない場合がある。 ・ 関連機関の情報が不足している。 ・ 技術者の継続教育システムが整っていない。

20. 小農支援体制再編の方向 支援機関のポテンシャルと課題（関連機関）

INIAP	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農牧業の研究機関として、高い技術力がある。 ・ 各県に職員が配置されている。
INAR	<ul style="list-style-type: none"> ・ 灌漑システム整備、運営の実績が豊富である。 ・ 灌漑システム整備、運営の専門家が多数任籍する。 ・ シエラ地域に6つの地域事務所があり、全県をカバーしている。
INCCA	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小農への技術普及プロジェクトを委託事業として実施している。
BNF	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小農支援のための十分な資金残高のクレジットがある。 ・ シエラ地域に33の支店が配置されている。 ・ 小農へのマイクロクレジット運用に実績がある。

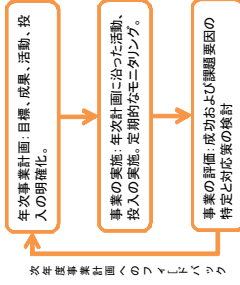
21. 小農支援体制再編の方向-1 組織間の協調体制の確立



22. 小農支援体制再編の方向-2

組織内部のマネージメントシステム向上 (MAGAP県を例として)

- 現在のPOAのシステムに加え、新たな計画、モニタリング、評価、フィードバックまでの一連のプロセスをサイクリック管理システムを導入する。
- このシステムは、極力技術者の負担にならないようなシステムとする。
- MAGAP県事務所間の技術・運営情報交流のシステムを構築する。
- これらのシステムの運用・管理は例えばシエラ次官室が中心となって行う。



23. 小農支援体制再編の方向-3

技術者の能力向上

- 技術者の研修などの教育はシエラ地域全体の関連機関の小農支援技術者を対象に実施する。
- 技術者のレベル、対象作物などに合わせた段階的な中期的な普及技術者養成プログラムを整備する。
- 技術者間で行う技術学習の場を整備する。

JICA 調査第 6 回ワーキンググループ会合

プログラム

- 目的:
- ・中央レベルおよび県レベルのカウンタパートの関連機関に対して、第二年次の活動について説明する。(今年度の協力を得るため。)
 - ・小農支援体制再編計画の3つの基本事項素案を説明する。(ただし、先行して説明しているトゥングラウアとチンボラソのカウンタパートについては、再度説明の必要はなく、同カウンタパートには今回は発表側として質疑応答に加わってもらう。)
 - ・再編計画の「基本事項1」で示す県調整委員会を運用するに当たり、共有すべき必要な情報を明らかにする。(MAGAP チンボラソ県事務所が県調整委員会の運用に必要な情報を明らかにし(例えばコミュニティや農民組織の一覧表等)、一例として発表してもらう。その後、グループワークを通じて、機関毎に県レベルの農牧業開発に必要な情報を明らかにし、発表する。)
- 場所: ホテルアンバト
- 日時: 2010年4月15日(木)9時半
- 内容:

時間		活動	担当
開始	終了		
09:30	09:40	開会の言葉(今回のワーキンググループの趣旨および議事次第説明、参加者紹介)	MAGAP 第3地域次官室
09:40	09:55	ワーキンググループ、分科会の概要説明	MAGAP 第3地域次官室
09:55	10:15	小規模農家支援体制再編計画の素案を説明	JICA 調査団
10:15	10:35	質疑応答	MAGAP トゥングラウア県事務所
10:35	10:50	休憩	
10:50	11:10	調査団が提案する県調整委員会のメンバーで共有する必要がある MAGAP 県が所有する情報の説明	MAGAP チンボラソ県事務所
11:10	12:10	県調整委員会を運営するために各機関の所有する情報を明らかにするグループワークと結果発表	JICA 調査団
12:10	12:20	閉会の辞(次回の会議の確認)	MAGAP トゥングラウア県事務所
昼食			

第六回ワーキンググループ会議参加者名簿

機関名／所属場所／部署			氏名	役職	
MAGAP	Quito	Cooperación Internacional	Hector Jaramillo	Lic.	Técnico
MAGAP	Quito	Cooperación Internacional	María A. Moscoso	Dra.	Tecnica
MAGAP	Cotopaxi	Dirección Provincial de Cotopaxi	Francisco López Araujo	Arq.	Director
MAGAP	Cotopaxi	Dirección Provincial de Cotopaxi	Geovany Durán	Dr.	Técnico
MAGAP	Cotopaxi	Dirección Provincial de Cotopaxi	Nervo Alban	Ing.	Técnico
MAGAP	Cotopaxi	Dirección Provincial de Cotopaxi	Víctor Fiallos	Ing.	Técnico
MAGAP	Tungurahua	Dirección Provincial de Tungurahua	Fabian Valencia Tamayo	Ing.	Director
MAGAP	Tungurahua	Dirección Provincial de Tungurahua	Josué Salazar	Ing.	Coordinador
MAGAP	Tungurahua	Dirección Provincial de Tungurahua	Holger Vivanco	Ing.	Técnico
MAGAP	Bolívar	Dirección Provincial de Bolívar	Luis Rivera	Ing.	Director
MAGAP	Bolívar	Dirección Provincial de Bolívar	Edwin Lara	Ing.	Coordinador
MAGAP	Chimborazo	Dirección Provincial de Chimborazo	Oswaldo Alvares	Ing.	Técnico
MAGAP	Chimborazo		Angel Vaca	Ing.	Coordinador
MAGAP	Chimborazo		Mario Montenegro	Ing.	Director Técnico
BNF	Quito		Monica Ruiz	Ing.	Técnica
BNF	Quito		Galo Paredes	Ing.	SubGerente
BNF	Quito		Gino Caicedo	Econ.	
BNF	Cotopaxi		Victor Masapanta	Lic.	Gerente
BNF	Tungurahua		Erick Cepeda	Ing.	Gerente
BNF	Bolívar		Juan Carlos Bravo	Ing.	Crédito
BNF	Bolívar		Leonor Medranda E.	Dra.	Crédito
BNF	Chimborazo		Edison Carrillo	Ing.	Gerente
Consejo Provincial	Cotopaxi		Ana Zambrano	Ing.	Técnica
Consejo Provincial	Cotopaxi		Santiago Díaz	Ing.	Técnico
Consejo Provincial	Tungurahua		Jorge Sánchez	Ing.	Director Planificación
Consejo Provincial	Tungurahua		Walter Jácome	Ing.	Facilitador
Consejo Provincial	Chimborazo		Carolina Chávez	Ing.	Técnica
INAR	Quito		Lorena López	Ing.	Técnico
INAR	Quito		Diana Estrella	Ing.	Analista Desarrollo
INAR	Tungurahua		Patricia Nuñez	Ing.	Directora Regional
INAR	Tungurahua		Marcelo Verázquez	Ing.	
INAR	Chimborazo		Jorge Cevallos	Ing.	Desarrollo
INCCA	Chimborazo		Mario Logroño	Ing.	Delegado Regional
INDA	Tungurahua		Geovany Noboa	Econ.	Coordinador
INDA	Bolívar		Alfonso Arguello	Ing.	Técnico
INDA	Bolívar		Romeo Saltos	Ing.	
INIAP	Quito		Adrian Carrera	Ing.	
INIAP	Cotopaxi		José G. Camacho	Ing.	Coordinador UTT-C
INIAP	Tungurahua		Galo Alvares	Ing.	Técnico
INIAP	Tungurahua		Jorge Merino	Ing.	Técnico



Ministerio de Agricultura, Ganadería, Acuacultura y Pesca
Agencia de Cooperación Internacional de Japón

シエラ地域における貧困削減のための
小農支援体制再編計画調査
(第2年次)

活動内容
Working Group
分科会(Working Group in)

2010年4月

1

Contenido(内容)

- 1.活動
- 2.調査実施体制
- 3.第2年次調査実施計画
- 4.ワーキンググループ(WG)
- 5.分科会(SWG)

2

1. 活動

- 計画作成方法の検討(国内作業)
- 各方向性の具体的な方策の検討
- 分析 + 知識・経験 = 方策素案の検討
- 各方向性の具体的な方策案の策定
- 計画案の取りまとめ
 - ・基本的な再編の方向性
 - ・再編の内容(方策より)
 - ・組織体制(方策より)
 - ・事例紹介(イテリムレポートより)
- Df/Rの作成(国内作業)
- Df/Rの説明およびコメント
- ファイナルレポートの作成

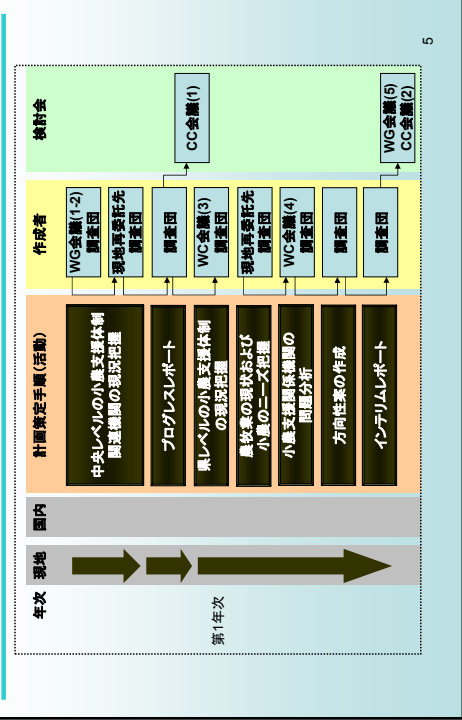
3

2. 調査実施体制

- コンドウクトールコミッティ
- ワーキンググループ
- 分科会(県調整委員会設立のための)

4

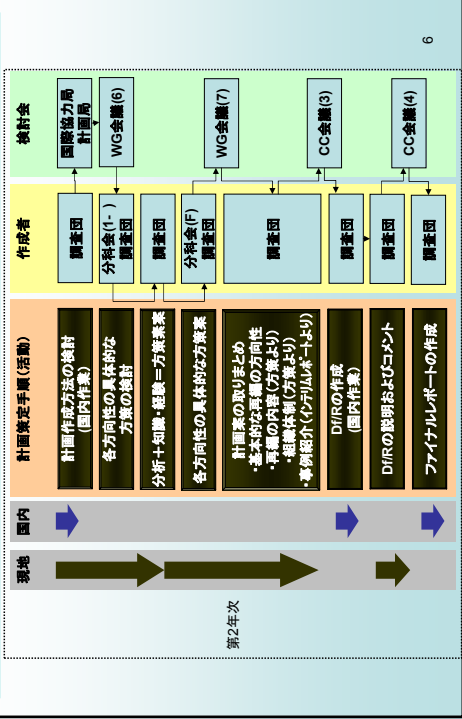
3. 第三年次調査スケジュール(第一年次の実績)



4. ワーキンググループ(WG)

- 目的
- 開催期間
- 参加者
- 実施体制
- 期待される効果
- 活動内容

3. 第三年次調査スケジュール(第二年次)



4. ワーキンググループ(WG)

目的

日本人専門家の支援を通じて、
農業支援サービスの関係機関からなる
ワーキンググループの参加者が
支援体制再編について検討する。

4. ワーキンググループ(WG) 開催期間

2009年2月から2010年5月

9

4. ワーキンググループ(WG)

参加者

- シエラ地域の農林畜産業に関する小農支援を行う関連機関 -

関係機関の役割	参加者の所属
農牧政策・計画	Subsecretaría de la Planificación
農業	Subsecretaría del Fomento Agrario
牧畜業	Subsecretaría del Fomento Ganadero
国際協力	Cooperación Internacional
シエラ地域の各県の指導・監督	Subsecretaría de la Zona de la Sierra
農牧業の技術支援	MAGAP 県事務所
農牧業の研究	INIAP
農牧業の技術普及	INIAP、INCCA
土地所有の登録	INDA
水資源の農牧業利用(灌漑)	INAR
小規模融資	BNF
地域の農牧業開発計画および事業実施	県政府、市政府

4. ワーキンググループ(WG)

実施体制

シエラ次官室	WG運営事務局
国際協力局	WGの主催者
調査団	WGの計画および実施支援
	WGの計画および実施支援

シエラ地域の農林畜産業に関する小農支援を行う関連機関

中央レベル	県レベル	農林畜産業関係機関
コロンビア	MAGAP	農林畜産業関係機関
パナマ	Subsecretaría de la Planificación	INIAP
	Subsecretaría de la Sierra	INCCA
	Cooperación Internacional	INAR
	INDA	INDA
	MAGAPコロンビアの県事務所	INIAP
	MAGAPパナマの県事務所	INAR
	MAGAPボリバルの県事務所	INDA
	MAGAPサンボリアの県事務所	INIAP
	MAGAPコロンビアの県事務所	INAR
	MAGAPパナマの県事務所	INDA
	MAGAPボリバルの県事務所	INIAP
	MAGAPサンボリアの県事務所	INAR
	MAGAPコロンビアの県事務所	INDA
	MAGAPパナマの県事務所	BNF

11

4. ワーキンググループ(WG)

期待される成果

- 農業政策の実現にかかわる関係機関とその役割が明らかになる。
- 中央・県レベルのNeedsの汲み上げとその実施方法に関する現況および改善点が明らかになる。
- 中央レベルおよび県レベル、それぞれの支援体制案が検討される。
- 中央レベルと県レベルの支援体制案が検討される。

12

4. ワーキンググループ(WG)

活動内容(昨年の実績)

<p>第一回WG会議(2009年3月23日、キト、中央レベルのC/P)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他国の事例紹介
<p>第二回WG会議(2009年5月27日：キト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央レベルの関連機関による既存のプロジェクトの事例紹介 (Good Practice)
<p>第三回WG会議(2009年6月22日、キト、中央レベルのC/P)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シエラ次官室による優良プロジェクトの発表 ・プログレスレポートの発表を基に中央レベルでの各機関の管轄分野の確認 ・第二回WG会議の事例からニーズの汲み上げとその実施方法に関する現況および改善点を共有する。
<p>第四回WG会議(2009年9月末、リオバンバ、中央および県レベルのC/P)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WG会議のFrameworkの共有 ・第一から第三回までのWG会議の紹介 ・県レベルにおける各機関の活動内容の紹介と既存プロジェクトの事例紹介 (Good Practice、ニーズの汲み上げとその実施方法に関する現況および改善点)
<p>第五回WG会議(10月末、リオバンバ、中央および県レベルのC/P)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インテグリティレポートの発表を基に以下のことを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ➢中央レベルおよび対象県レベルでの各機関の既存の役割 ➢県レベルの連携について

4. ワーキンググループ(WG)

活動内容(今年)

<p>第六回WG会議(4月中旬)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援体制再編の基本方針について、受領したコメントの返答 ・支援体制再編計画の基本事項および具体的な方策の作成方針について(目次の共有、スケジュールの共有) ・今後のワーキンググループ活動内容について
<p>第七回WG会議(5月下旬)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分科会の活動結果の発表 ・支援体制再編計画の基本事項の見直しおよび具体的な方策(再編のための活動、実施手順、実施体制)について

2年次のWGの活動は、分科会が中心となり、WG会議はそのキックオフ、および結果発表の場とする。

5. 分科会(SWG)

- 狙いと上位目標
- 目的
- 開催期間
- 参加者
- 実施体制
- 期待される効果
- 活動内容

5. 分科会(SWG)

上位目標と狙い

上位目標:

サブワーキンググループの活動を通じて具体的な方策が検討され、それを基に調査団が再編計画の素案を作成する。

狙い:

この経験を基に、今後、MAGAPシエラ次官室が中心となってシエラ地域の小農支援体制再編の計画作成を展開することができるようになる。

5. 分科会(SWG)

目的

第1年次で提案された
小農支援体制再編のための
3つの基本事項(インテリムレポートでは
方向性といわれていたもの)
の具体的な方策を検討する。

17

5. 分科会(SWG)

期待される成果

- 基本事項1
支援体制の再編に必要な「組織間の協調体制の確立」に必要な具体的な方策(各機関の役割、目的、成果、活動内容、実施手順、必要な手法、実施体制、運営方法、様式、配慮事項等)が検討され、範例となる。
- 基本事項2
各組織内部のマネージメントシステムの向上に必要な具体的なシステム(手順、クワイテリア、実施方法、必要な能力、体制、運営方法、様式、配慮事項等)が検討され、範例となる。
- 基本事項3
小農支援に必要な「技術者の能力向上」のための、必要な技術、能力向上のためのメカニズム(研修、ワークショップ、OJT、ファシリテーション、メンタリング、ネットワーキング、自己啓発活動等)が明らかになる。

18

5. 分科会(SWG)

活動内容

- 日本人専門家による各基本事項の具体的方策案の作成
- 日本人専門家による計画作成素案をどのようにSWGで活用し、範例を導き出すか検討
- ワーキンググループに各基本事項の具体的な方策の作成方法の説明
- 分科会の構築
- 日本人専門家が各分科会にて具体的な素案の説明
- 各分科会による具体的な計画素案の取りまとめ
- 各分科会による具体的な計画素案のWG会議での発表・共有

19

5. 分科会(SWG)

参加者

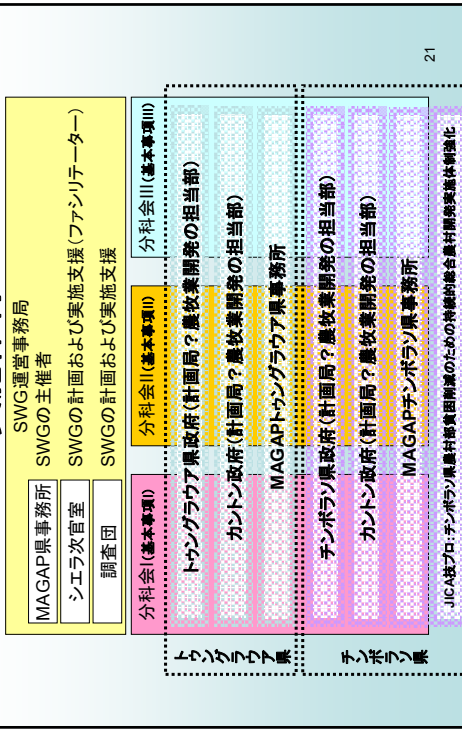
レベル 地域	MAGAP	県政府	カントン政府
中央レベル	第3地域次官室(旧シエラ次官室)	このような実施体制をフィードバックするのは？ 大統領府？ CONCOPE？	このような実施体制をフィードバックするのは？ 大統領府？ AME？
県レベル	MAGAPトングララ7 県事務所 MAGAPチンボラ7 事務所 農牧業の技術支援	トングララ7県(政府計画局) チンボラ7県(政府計画局)	カントン(計画担当部) カントン(計画担当部)
役割			


20

MAGAPと確認

5. 分科会(SWG)

実施体制





Ministerio de Agricultura, Ganadería, Acuacultura y Pesca
Agencia de Cooperación Internacional de Japón

シエラ地域における貧困削減のための
小農支援体制再編計画調査
(第2年次)

小農支援体制再編計画

2010年2月

1

調査の目的

全体目標:
農牧生産の向上

個別目標:

- 小農支援システムの再構築
- 中央および地方政府における適正な小農システムの提案
- 調査の共同実施を通じたカウンターパートの調査・計画に必要な能力の向上

2

内容

- 現状と課題
- 小農支援体制再編の戦略
- 小農支援体制再編の基本事項

3

現状と課題

- シエラ地域の小農の貧困の現状と課題
以下の理由から小農の農業生産性・収益性が低い。
 - 生産基盤が脆弱である。
 - 資本が乏しい。
 - 十分な技術力を持っていない。
 であるにもかかわらず、小農は農業支援へのアクセスが限られている。
- シエラ地域の農業・農村開発支援の現状と課題
 - 支援機関の人員、予算、技術に限りがある。
 より効果的および効果的な支援の方法・体制の構築が必要となっている。

4

小農支援体制再編の戦略

- 新憲法による新たな枠組みに対応した県レベルの体制を作る。
- 各関連機関が容易に取り組める協調体制を作る。
- 既存の小農支援体制を活用し、効果を最大限に発現させる。
- 貧困小農のニーズや時代の変化に対応した技術支援に必要な能力を強化する。

5

小農支援体制再編の基本事項

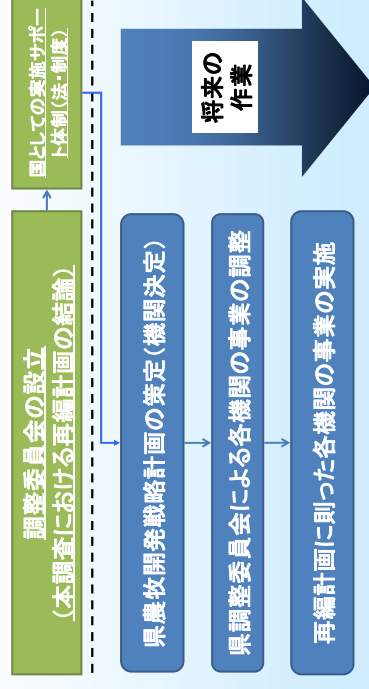
- 基本事項1:
組織間協調体制の確立
(チンボラソ県)
- 基本事項2:
内部マネージメント向上
- 基本事項3:
技術者の能力向上

6

基本事項1：組織間協調体制の確立 (チンボラソ県)

7

基本事項1：組織間協調体制 協調体制確立のための道程



8

基本事項1:組織間協調体制 小農支援体制再編の必要性

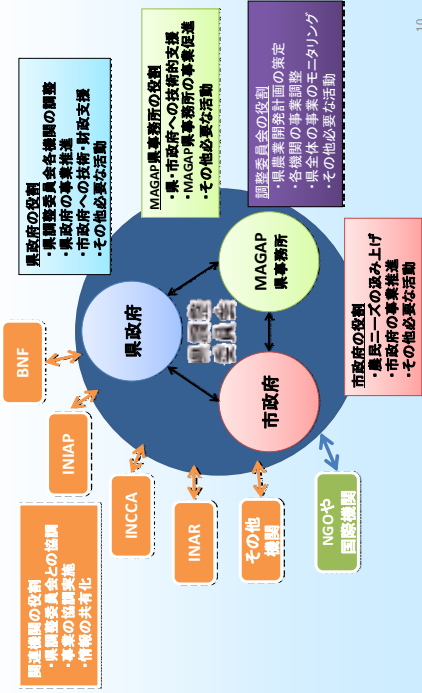
- 各支援機関の支援対象農家に対する限られた専門家の数
- 各機関の役割と機能の違い
- 数多くの支援対象に対して限定的な予算



支援ポテンシャルの最大化

9

基本事項1:組織間協調体制 組織間協調体制の構築



10

基本事項1:組織間協調体制 県調整委員会の役割

1. 県政府、市政府、MAGAP県の年次計画の調整
2. 県内の小農支援事業のモニタリング
3. 小農支援事業の情報収集および各機関の情報交換
4. その他必要になること

ただし年次計画の調整については、当初各機関の独自性、独立性を十分尊重する

11

基本事項1:組織間協調体制 県/市政府、MAGAP県の役割

1. 県政府:
プロジェクトの実施が中心
2. 市政府
日常の普及活動
3. MAGAP県
普及活動と市や県政府に対する技術的支援

12

基本事項1:組織間協調体制 組織間協調体制検討のポイント

県政府、市政府、MAGAPの協調による小農
支援ポテンシャルの最大化を狙う

- ① 支援事業の調和体制の確立
- ② 支援事業の協働体制の確立
- ③ 機関間での補完体制の確立

13

基本事項2:内部マネージメント向上

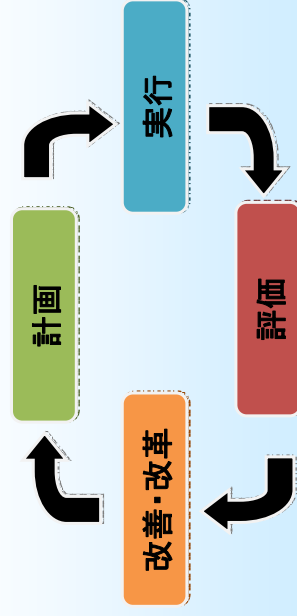
14

基本事項2:内部マネージメント向上 導入の必要性

- 事業の質と効率性の向上
効率的で質の高い支援事業の実施
- 事業の企画、形成能力の向上
状況の変化に対応した、事業の立案と実施
- 受益者および市民への説明責任の向上
評価結果・内容の公表
小農の視点に立った組織・事業運営、受益者の
参画と協働

15

基本事項2:内部マネージメント向上 マネージメントシステムのサイクル



16

基本事項2:内部マネージメント向上 マネージメントシステムの運用

- システムの運営
プロジェクトの評価については担当機関が実施し、プログラムの評価に関しては県調整委員会が実施する。
- 県調整委員会との関連
各機関は評価結果と改善内容を調整委員会に報告する。調整委員会を通じて、各機関は評価結果を共有する。

17

基本事項3:技術者の能力向上

18

基本事項3:技術者の能力向上

1)能力向上の必要性
(ワーキンググループの行った問題分析の結果)

小農へ十分に支援が届かない

小農へ効果的な普及活動ができない。

小農が必要とする技術の理解が不十分

一部やる気のない技術者

技術力が不十分な技術者

技術者数が限定的で活動が不十分

過去の成功・失敗が活かされていない

組織としての取り組みが不十分

19

基本事項3:技術者の能力向上

3)基本的方向性の案(実施体制)

- 目的:シエラ地域で活動し小農支援に携わる技術者の能力向上に向けた継続(計画)的教育
- 調整機関:MAGAPシエラ次官室
- 協力機関:県/市政府、MAGAP県事務所、MAGAP関連機関、大学等教育機関、NGOなど
- 対象者:シエラ地域において小農支援を担当する技術者(MAGAP、県、カントン)


20

基本事項3:技術者の能力向上

3)基本的方向性の案(活動)

- 養成プログラムの整備:技術者のレベル、対象作物・課題に合わせた段階的養成プログラム(定期的・継続的研修)
- 実践的能力向上プログラムの実施:普及に移す新技術、優良プロジェクト紹介、現地技術の開発・実証・組立
- 技術者ネットワークの整備:技術者間の情報・技術交流の場

21



Ministerio de Agricultura, Ganadería, Acuacultura y Pesca
Agencia de Cooperación Internacional de Japón

シエラレオンにおける食料削減のための
小規模農家支援体制再編計画調査
(第二年次)

ワークショップの実施方法

2010年4月

1

内容

- ワークショップの目的
- 基本方針1の見直し
- 背景
- 期待される成果
- 活動

2

ワークショップの目的

農牧円卓会議の効率的かつ効果
的な運用のための、主要メンバー
間で再編計画に資する共有すべ
き情報の把握

3

基本方針1の見直し

4

基本方針1の見直し

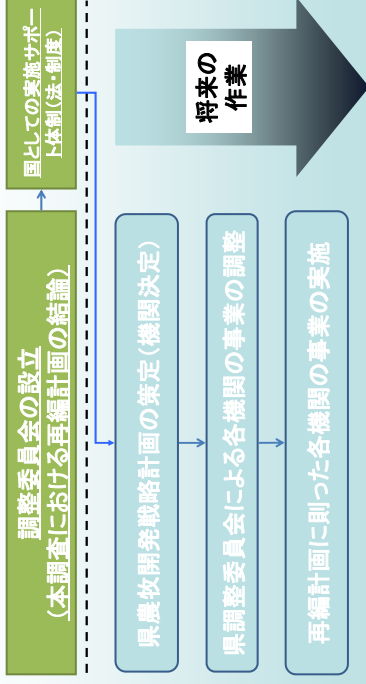
- 組織再編の基本方針 -

- **基本事項1:**
組織間協調体制の確立
(チンボラン県)
- **基本事項2:**
内部マネージメント向上
- **基本事項3:**
技術者の能力向上

5

基本方針1の見直し

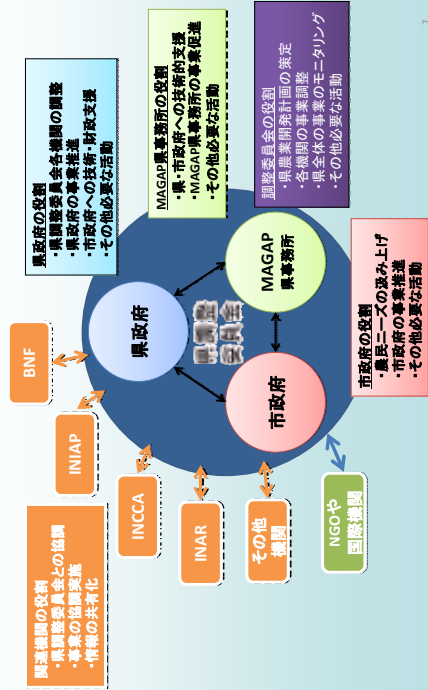
協調体制確立のための道程



6

基本方針1の見直し

- 支援機関協調体制の構築 -



7

背景

- Coordinar las actividades agropecuaria entre cada institucional en el nivel Provincial.
- Brindar idea para elaborar Comprehensive Plan de Desarrollo Agropecuario en el nivel Provincial,
- Brindar idea para levantar/monitorear/evaluar Programa y Proyecto orientado apoyo agropecuario a Pequeños Agricultores.

8

期待される成果

1. 中央・県レベルの各機関がとともに、各々が所有する情報を明らかにする。
2. 県農牧開発の各実施者が、各々役割に従って、実施に必要とされる情報を再認識する。
3. 前述した情報を基に、県レベルの農牧開発のために共有する必要がある情報を明らかにする。

9

活動

- ワークショップの準備
- 期待される成果1のための活動
- 期待される成果2のための活動
- 期待される成果3のための活動

10

活動

- ワークショップの準備 -

各グループの参加者の構成は以下の通り。

- グループA: INDA, INCCA y INAR
- グループB: INIAP
- グループC: MAGAP
- グループD: BNF
- グループE: 県審議会

各グループから進行役を選ぶ。

11

活動

- 方法 -

1. 各グループの参加者は自分の意見を紙に書き込む。
2. アイデアを収集する前に、各グループはファシリテーターの補助の下、アイデアをグループ分けする(15分)。
3. 各グループは情報を明確化した結果として、ワークショップ内で上がったアイデアの優先付けをする
4. 各グループはワークショップ結果を発表(5分間)するために発表者を選ぶ。

12

活動

-期待される成果1のための活動-

中央・県レベルの各機関がとともに、各々が所有する情報を明らかにする。

情報を明確化する項目

- 常に収集しているデータ
- 法律、制度、政策等に関する情報
- 知識・技術に関する情報
- 支援サービスに関する情報
- その他

すべての情報は共に活用できる物として書類としてとりまとめたデータ。

農牧円卓会議のために新たに作成する必要がある情報

13

活動

-期待される成果2のための活動-

県農牧開発の各実施者が、各々役割に従って、実施に必要なとされる情報を再認識する。

情報を明確化する項目

- 必要な情報

農牧円卓会議のために新たに作成する必要がある情報

14

活動

-期待される成果3のための活動-

前述した情報を基に、県レベルの農牧開発のために共有する必要がある情報を明らかにする。

共有する必要がある情報を、優先順位に従って、各組織が収集する必要がある。

15

活動

項目	明確化された情報
恒久的に収集するデータ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 生産単位産量(IPA)の情報は(?) ▶ 生産コスト ▶ 県レベルの価格情報 ▶ 県レベルの産業者がオンラインセル(団体、牛豚) ▶ オンラインデータ、基金、巡回組合、組織等の登録情報 ▶ 農牧業セクター政策(生産者ユニオン、他)
法、制度、その他情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ INAPが導くデータ
知識・技術に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 組織強化(定款等)、管理、農牧キャパシティ、コンニエーター企業支援、技術移転、組織間協働(市役所、ハロキア政府、警察本部)、補助金等、IT支援
その他	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 行動計画のフレームワーク ▶ 県レベルの行動計画 ▶ 政策記号とその普及に関するデータ ▶ 組織間協働を要した面談 ▶ 活動予算のリスト、各 側の年間予算一覧 ▶ 生産 購入、販路に関するデータ ▶ 産業者 購入業者のデータ(団体、組合、他) ▶ 産肉間のコラボネティビティ(産業者) ▶ 県レベルの政策データ (INAP中管理)
必要な情報	

16

第7回ワーキンググループ会議

プログラム

目的: 調査に関係した機関（シエラ対象4県とキト）の技術者らに対して最終報告書案を報告する。
 場所: キト
 日時: 2010年7月15日（木） 10時から15時10分まで
 参加者: 主に第6回ワーキンググループと第3回分科会に出席した人々が今回参加する。
 内容:

時間		内容	発表者等
開始	終了		
10:00	10:05	開会の言葉とこの会議の目的説明	国際協力局
10:05	10:15	今日のプログラムの説明と参加者紹介	国際協力局
10:15	10:45	調査フレームと活動内容の発表	JICA 調査団
10:45	11:30	小農支援の方向性の発表	国際協力局 JICA 調査団
11:30	12:00	コメントや質問等	司会者
12:00	13:00	昼食	司会者
13:00	13:45	小農支援協調体制の発表	国際協力局
13:45	14:30	貧困小農に必要な技術の説明	国際協力局 JICA 調査団
14:30	15:00	コメントや質問等	司会者
15:00	15:10	閉会の言葉	国際協力局 JICA 調査団藤田団長

第七回ワーキンググループ会議参加者名簿

機関名／所属場所／部署			氏 名		役 職
MAGAP	Quito	Cooperación Internacional	Irene Schuldt	Ing.	Directora
MAGAP	Quito	Cooperación Internacional	María A. Moscoso	Dra.	Tecnica
MAGAP	Quito	Cooperación Internacional	Mauricio Rivera	Teni.	Técnico
MAGAP	Cotopaxi	Dirección Provincial de Cotopaxi	Geovany Durán	Dr.	Técnico
MAGAP	Cotopaxi	Dirección Provincial de Cotopaxi	Nervo Alban	Ing.	Técnico
MAGAP	Tungurahua	Dirección Provincial de Tungurahua	Josué Salazar	Ing.	Coordinador
MAGAP	Tungurahua	Dirección Provincial de Tungurahua	Holger Vivanco	Ing.	Técnico
MAGAP	Bolívar	Dirección Provincial de Bolívar	Rodolfo Camacho	Sr.	Técnico
MAGAP	Bolívar	Dirección Provincial de Bolívar	Edwin Lara	Ing.	Coordinador
MAGAP	Chimborazo	Dirección Provincial de Chimborazo	Oswaldo Alvares	Ing.	Técnico
MAGAP	Chimborazo		Angel Vaca	Ing.	Coordinador
BNF	Quito		Oscar Terán	Econ.	Director
BNF	Quito		Diego Ordoñez		Supervisora
BNF	Bolívar		Juan Carlos Bravo	Ing.	Crédito
BNF	Bolívar		Felix Culqui		Consultor
Consejo Provincial	Tungurahua		Walter Jácome	Ing.	Facilitador
Consejo Provincial	Chimborazo		Carolina Chávez	Ing.	Técnica
Consejo Provincial	Chimborazo		Galo Juarado	Ing.	Técnico
INAR	Quito		Ximena Rojas	Ing.	Directora de Desarrollo y Fortalecimiento
INAR	Tungurahua		Patricia Nuñez	Ing.	Directora Regional
INAR	Chimborazo		Jorge Cevallos	Ing.	Desarrollo
INAR	Chimborazo		Wilson López	Ing.	Dirección Regional
INCCA	Quito		Luis Oña	Dr.	Técnico Seguimiento y Evaluación
INDA	Chimborazo		Luis Vicente Agualzacag		Funcionario
INIAP	Quito		Fernando Chávez	Ing.	Técnico VTC
INIAP	Cotopaxi		José G. Camacho	Ing.	Coordinador UTT-C

エクアドル国
シエラ地域における貧困削減のための
小規模農家支援体制再編計画調査

ドラフトファイナルレポート 調査フレームと活動内容の発表

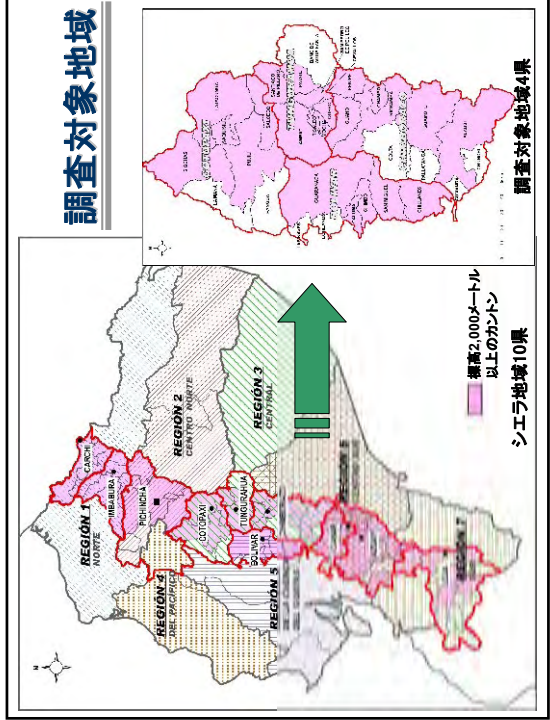
2010年7月
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
株式会社三祐コンサルタンツ

1

内容

- 調査対象地域
- 背景と目的
- 小農支援の必要性
- 調査の対象者
- 関係機関
- 調査機関と調査の範囲
- 成果
- 活動の概要
- 小農が置かれている現況

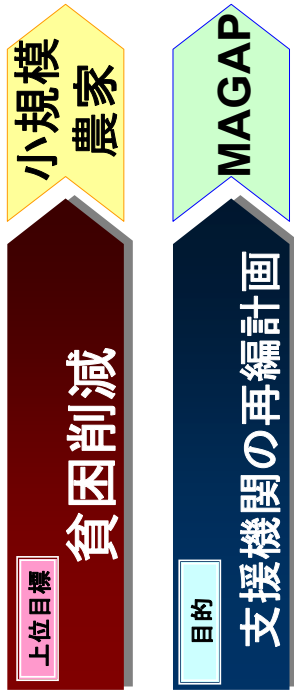
2



背景と目的

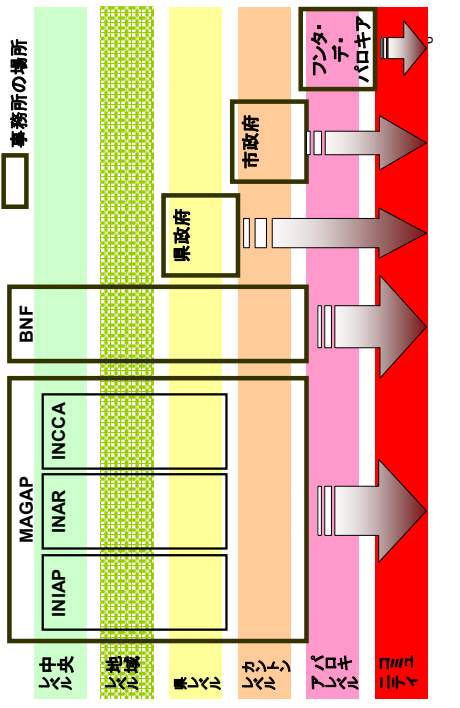


調査の対象者



5

小農へ農牧支援をする行政機関



調査期間および調査の範囲

第1年次
(2009年2月 → 2009年10月)

- 1. 小農対象の農業支援体制の現況分析
- 2. 農業支援に対する小農のニーズ把握

第2年次
(2010年2月 → 2010年7月)

- 3. 地方農村部の小農に必要な農業技術の特定
- 4. 小農支援のための協調体制構築計画の作成

7

成果（レポート）

報告書	主要内容	提出時期
インセプションレポート	調査の基本方針、調査項目、調査方法、調査スケジュールなど	平成21年2月上旬
プログレスレポート	「エ」国およびシエラ地域の小農支援に関する政策・制度およびその実施状況の把握	平成21年6月下旬
インテリムレポート	シエラ地域における小農のニーズおよび小農支援の実態の把握	平成21年10月下旬
ドラフトファイナルレポート	全体調査結果、小農支援体制再編成計画、提言など	平成22年7月中旬
ファイナルレポート	全体調査結果、小農支援体制再編成計画、提言など	平成22年9月初旬

8

活動の概要

- 小農を支援する行政機関の現況把握
- 小農支援の実態とニーズ
- ワーキンググループ
- 分科会

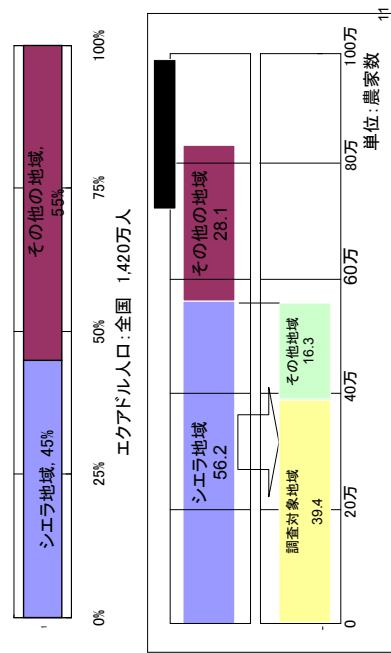
9

小農の概要

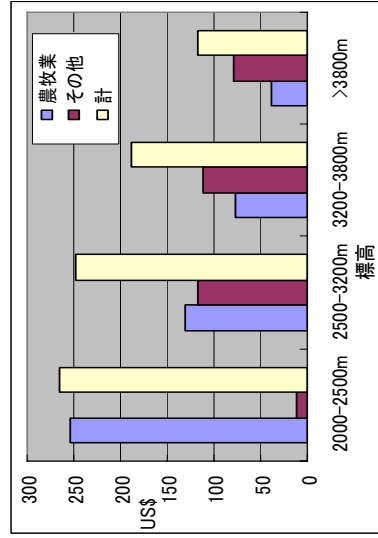
- 小農を農家数
- 集落の標高と所得源
- 小農の主要な農牧活動
- シエラ地域の主要畑作物の平均収量
- 小農が直面する社会的な側面

10

小農の農家数



集落の標高と所得源



12

小農の主要な農牧活動

特徴 農産物名など

主にシエラ地域で生産される農牧産品
 メイズ(生食用)、フリフォール豆、ジャガイモ、大麦、小麦、ソラマメ、グリーンピース、木トマト、バナコ、乳製品、羊など

他地域に比較して多く生産される農畜産品
 エンドウ豆、インゲン、豚など

シエラ地域を特徴付ける農牧活動
 メイズ(生食用)、フリフォール豆、エンドウ豆等による混作。伝統的農業(キヌア、チヨチヨ、メジヨツコ、薬草等の栽培。有畜複合農業)

13

シエラ地域の主要畑作物の平均収量

地域	ジャガイモ	食用メイズ	小麦	大麦
チンボラソ県*1	4.0	1.9	0.4	0.6
「E」国全国平均*2	6.1	2.6	0.6	2.0
「E」国(目標)*2	20.0	4.0	1.2	3.5
南米平均*3	15.8	---	2.3	2.5

14

小農が直面する社会的側面

ミニファンデイオ化が進んでいる。

標高と農家所得
 高標高になるに従い、所得は農牧業とその他の収入もともに低くなる。

貧困コミュニティの現状

- ・ 若者の多くが出稼ぎに行き、村に残された高齢者が農業を保持しており、**農業の転換や新技術を受け入れられない状況にはない。**
- ・ 小農は**総合農村開発プログラムを希望しており**、この実現は若者に村に戻るインセンティブを与える。
- ・ 農民たちは地域のポテンシャルや地理的立地を常に考慮した持続可能な**長期的な計画を望んでいる。**

農業収入と農外収入：
 農家の半数以上が「第2種兼業農家(農外収入 > 農業収入)」である。

農業農村開発単位としての
 コミュニティ：
 多様な組織がコミュニティを単位として開発支援を行っている。

Muchas Gracias.

16

エクアドル国
シエラ地域における貧困削減のための
小規模農家支援体制再編計画調査

ドラフトファイナルレポート

小農支援の方向性 および 支援協調体制計画

2010年7月
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
株式会社三祐コンサルタンツ

1

内容

- 背景
- 協調体制が目指す小農支援の方向性
- 協調体制
- 協調体制の構築
- 内部マネジメント
- 技術者の能力向上

2

背景

- 協調体制構築の必要性
- 小農が直面する社会的側面
- 国家の取り組み

3

背景

協調体制構築の必要性



「貧困小農の農牧業」および「支援機関の小農支援」の強みと弱み

支援機関の小農支援

- 新憲法をおよび国家開発計画に基づき小農支援を実施する
- Buen Vivir Ruralに計画された、プラン・プログラム・システムに基づき活動が行われる
- 地方政府が小農支援実施の中心になり、POTIに基づいて具体的な開発が実施される

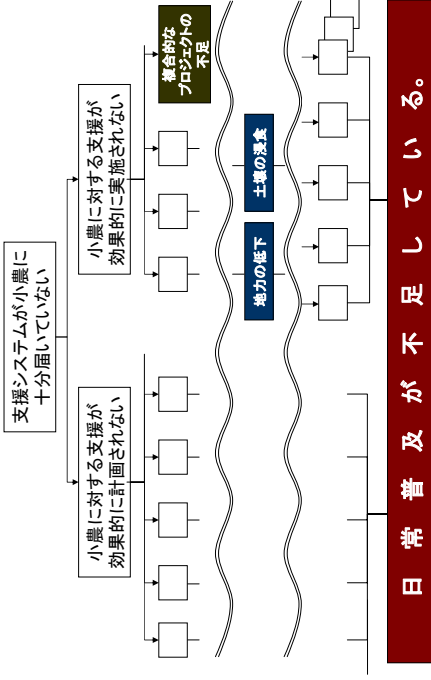
強み

- 支援機関の人員・予算と比較して貧困小農の人口は多く、居住地も散在している
- 支援機関間の協調が、一部に留まっている
- **必要な支援活動の全てをカバー出来ていない**
- 支援機関の活動の一部にシステム上改善すべき点がある

弱み

5

小農支援の問題



日常普及が不足している。

協調体制が目指す小農支援の方向性

- **日常普及活動**
(普及員が少なく、忘れられた農民が多い)
- **地力維持・増進と土壌保全**
(低い生産性の大きな原因は低い土壌肥沃度)
- **事業の複合化**
(単発のプロジェクトが多くその効果が限定的)

7

協調体制

- 協調体制の位置づけ
- カントントンレベルの協調体制
- 県レベルの協調体制
- 小農支援のための協調体制

8

農牧フォーラム (カントン／県)

■機能

-テリトリアル計画の農牧部門の推進母体

■参加者

-農牧産業に関わる全アクター

民間セクター：農民、農民組織、農産加工業、市場・流通・販売業など

公共機関：市政府、県政府、MAGAP

支援機関：大学、NGO、金融機関

協調体制構築

- 農牧フォーラム (カントン／県)
- 農牧円卓会議 (カントン／県)
- 農牧円卓会議における主要メンバーの役割
- 主要メンバーの役割
- 協調体制におけるMAGAPの役割
- カントンレベルの協調体制による小農支援実施に至る手順
- 県レベルの協調体制による小農支援実施に至る手順

農牧円卓会議 (カントン／県)

■目的

- テリトリアル計画策定の支援
- 農牧フォーラムの結成
- 小農支援のための協調

■主要メンバー

県レベル： 市政府、県政府、MAGAP県事務所
 カントンレベル： パロキア政府、市政府、県政府、MAGAP県事務所

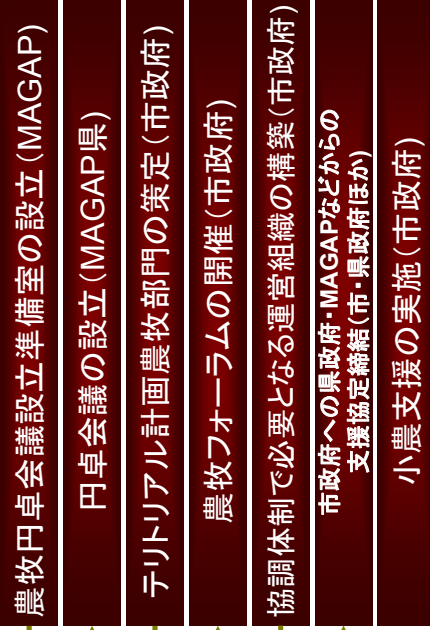
農牧円卓会議における主要メンバーの役割

- パロキア政府：農民に最も近いコムニダやパロキアの情報を提供する。
- 市政府：コムニダレベルの農牧情報を提供する。カントン農牧円卓会議を主催する。
- 県政府：県政府のコムニダ内で実施される農牧支援事業や県レベルの農牧情報を提供する。県農牧円卓会議を主催する。
- MAGAP県事務所：MAGAPのコムニダ内で実施される農牧支援事業や国家レベルの農牧情報を提供する。

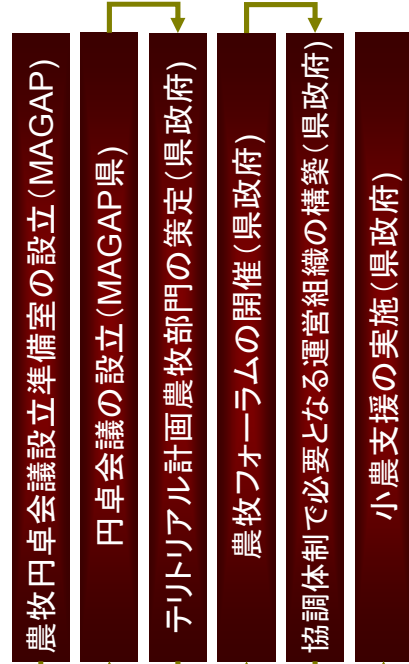
協調体制におけるMAGAPの役割

- 小農支援実施者とセクター政策機関の両面のアクターとして参加する。
- 全国のテリトリアル開発における農牧業（貧困小農）開発のイニシアティブを取る。
- このために、本庁に農牧フォーラム・円卓会議の全国推進室を設置する。

カントンレベルの協調体制による小農支援実施に至る手順



県レベルの協調体制による小農支援実施に至る手順



内部マネジメント

プロジェクトプロフィール表の内容統一 評価シートの導入

- プロジェクトマネジメントシステムの導入でプロジェクトを改善・改革する。
- プロジェクト実施担当者のプロジェクト実施内容の理解を深める。
- 支援機関間でのコミュニケーションを高めるツールとして利用する。
- プロジェクト運営の透明化の向上。

技術者の能力向上

MAGAPIによるファシリテーター養成プログラム

- 農業農村開発ファシリテーター養成研修
- 農業農村開発ファシリテーター・ネットワークの構築
- 県農業農村開発ファシリテーター会議

- 必要とする能力
 - 参加型開発のためのより柔軟性のあるファシリテーション能力
 - 開発事業のコーディネーターとしてのコーディネーション能力も不可欠
 - 基礎的な専門技術
- 能力向上に必要な活動
 - 継続した研修と実践、自己研鑽、OJT、地域別研修

Muchas Gracias.

エクアドル国
シエラ地域における貧困削減のための
小規模農家支援体制再編計画調査

ドラフトファイナルレポート 小農のために必要な農牧業技術

2010年7月

株式会社オリエンタルコンサルタンツ
株式会社三祐コンサルタンツ

1

内容

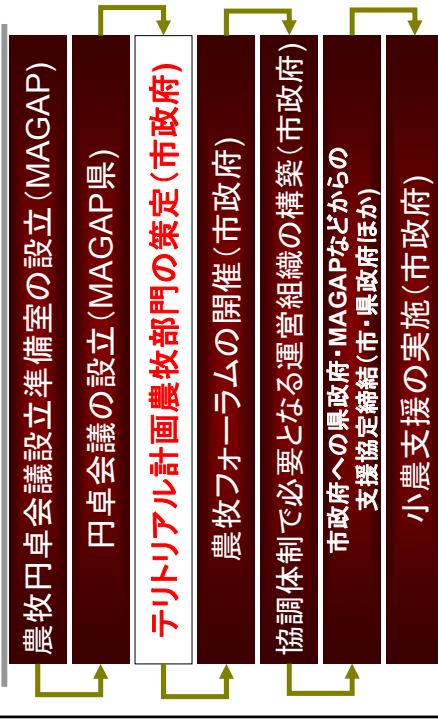
- 貧困小農の農牧業の強みと弱み
- 調査団が提案する農牧業技術の位置づけ
- 小農支援の方向と開発モデル
- プロジェクト実施に当たっての配慮すべき事項
- 小農支援協調体制と小農に必要な技術
- 農牧セクターの優先課題／プロジェクト
- 優先課題／プロジェクト

2

貧困小農の農牧業の強みと弱み

貧困小農が営む農牧業	
強み	<ul style="list-style-type: none"> - 伝統的な栽培技術を持っている - アンデス地域特有の気候条件に合った作物を栽培している - 集落内で相互扶助システムが働いている - 農外所得を得られる環境がある
弱み	<ul style="list-style-type: none"> - 持続的な土地利用の崩壊(土地利用・水・土壌) - 郷土作物の喪失と遺伝的形質の劣化 - 余剰農産物の適正な販売が困難 - 価値連鎖構築の基本となる農民組織化の遅れ - 集落が崩壊の危機にある

カントンレベルで調査団が提案する 農牧業技術の位置づけ



県レベルで調査団が提案する 農牧業技術の位置づけ



小農支援の方向と開発モデル

- 前提条件**
1. 農牧セクター開発計画の優先課題: 「食糧主権と生産者の収入向上を果たし、農村家族の『良い生活』への貢献。
 2. 基礎作物の生産性向上の重要性: 地域自然環境の改善を図りつつ、土、種子、栽培方法の改善による基礎作物の生産性向上。
 3. 販売を前提とする集約的営農作目の導入が起爆剤: 「農産物の適正販売」と「農民組織化」の課題克服を前提とした集約農業の導入が鍵である。
 4. 容易に取り掛かれる低投入型換金作目の導入・定着: シェア地域貧困小農の最下層は女性が営農を担う家庭である。

3つの小農開発モデル

- ①: 自給食糧生産中心+現金収入 (労働収入、低投入型換金作目)
- ②: 換金作目 (集約農業) 中心+自給食糧生産
- ③: 換金作目 (集約農業)

プロジェクト実施に当たっての 配慮すべき事項

1. サービスを提供する側、行政側のジェンダーに関する意識・理解と行動を改善する。
2. 既存の農業支援サービス・プログラムをジェンダーに配慮したものにジェンダー・センシティブへと修正する。
3. パラモの開発での農牧業活動には制限を設ける。
4. 傾斜地における農業プロジェクトでは土壌保全に留意する。
5. 農業支援政策、サービスにおけるジェンダー・メインストリーミング及び先住民への配慮を一貫させるためのコーディネーションシステムを、MAGAP、県・市政府内に構築する。
6. BNFをはじめとする金融機関と連携する。

小農支援協調体制と小農に必要な技術



農牧セクターの優先課題／プロジェクト

小農支援の 重点事項	優先課題／プロジェクト	対象機関
日常普及	-簡易土壌浸食対策工の普及 -ERA'sを活用した参加型農村開発の実施 (Needsの把握、組織化、流通・販売)	-MAGAP・ 県・市技術 者 -ERA's
生産基盤	-灌漑インベントリーの作成 -伝統品種(農作物・家畜)および技術のインベ ントリー作成	-INARおよ び県政府 -INIAP
複合プロジェクト	-環境農業 -道の駅 -アグロシルポバストラル	MAGAP/県 政府/市政 府/関連機 関 9

優先課題／プロジェクト

- 日常普及の優先課題／プロジェクト
 - ERA'sを活用した参加型農村開発の実施(Needsの把握、組織化、流通・販売)
 - 簡易な土壌浸食対策工の普及
- 生産基盤の優先課題／プロジェクト
 - 簡易な土壌浸食対策工の普及
 - 灌漑インベントリーの作成
- 複合プロジェクトの優先課題／プロジェクト
 - 伝統品種(農作物・家畜)および技術のインベントリー作成
 - 環境農業
 - 道の駅
 - アグロシルポバストラル

10

日常普及: ERA'sを活用した参加型農村開発の実施(Needsの把握、組織化、流通・販売)

普及活動名	農村地域のインベントリー調査
上位目標	カントン・県レベルの農村開発の戦略が明らかになる。
目的	各集落の農家・農民組織が自らの課題が共通に認識される。
成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 農民組織化を図り、その中から代表者を選定する。 2. コミュニティおよび組織の社会・経済状況、自然状況、ニーズに関するインベントリーが作成される。 3. 代表者は行政側と協力してコミュニティの課題とその対策を短期、中期、長期的視点で整理される。 4. コミュニティで解決できる物、行政の支援が必要な物に分類され、インベントリーとしてとりまとめられる。
実施機関	MAGAP(ファシリテーター、県事務所)、県政府、市政府
実施期間	6ヶ月～1年

日常普及: 簡易な土壌浸食対策工の普及

普及活動名	簡易な土壌浸食対策工の普及
上位目標	シエラ地域において、対象農民によって農牧業活動の基盤となる土壌が保たれる
目的	シエラ地域の農牧生産性が低下する農家を対象に、農家が自ら実施できる簡易な土壌浸食対策工の技術が普及される。
成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県レベルで土壌浸食対策に関する運営委員会が設立され、コミュニティおよび農民組織等から技術移転対象者が選定される。 2. 座学、実践、先進地域への視察を通じて、対象者へ技術指導が行われる。 3. 技術移転対象者により対象コミュニティ内の土壌浸食対策工の普及に関する活動目標を設定される。 4. 普及の活動目標を通じて、技術移転対象者が中心となり技術をコミュニティおよび農民組織内に普及するとともに、普及・展開の状況をモニタリングする。
実施機関	シエラ地域内のMAGAP県事務所、ERA'sのファシリテーター、市・県の農牧業担当者(INIAPによる技術協力が必要)
実施期間	第一フェーズ(2ヶ月)で上記成果1.～3.を行い、以降、成果4. 日常 ¹ ₂ 的な技術支援および移転技術のリフレッシュメントを行う。

生産基盤：灌漑インベントリー作成

プロジェクト名	県レベルの灌漑インベントリー作成
上位目標	県内の灌漑支援が円滑かつ効率的に実施され、県内の農牧生産が安定する。
目的	灌漑地を明らかにした上で、灌漑インベントリーが作成され、県レベルの灌漑事業の計画策定および事業実施に活用される。
成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県内の灌漑事業を支援する関連機関を明らかにし、その支援実施状況のインベントリーが作成される。 2. 県内の灌漑施設建設のための資機材取り扱い業者、施工を行う業者のインベントリーが作成される。 3. 県内の既得水利権（水利用者数、流量、水源、灌漑面積）、灌漑施設の種類・規模および敷設状況、対象作物、土地利用、自然条件、灌漑技術に関するインベントリーが作成される。 4. 作成されたインベントリーから、灌漑のポテンシャルが評価され、県レベルの灌漑事業計画策定の基礎資料とされる。 5. インベントリーの更新及び活用のための体制がINARおよび県・市政府内に構築され機能する。
実施機関	INAR及び県・市政府（SENAGUAの協力が必要）
実施期間	1ヶ年 13

生産基盤：伝統品種（農作物・家畜）および技術のインベントリー作成

プロジェクト名	伝統品種（農作物・家畜）および技術のインベントリー作成
上位目標	シエラ地域において、環境に配慮した持続的農牧業が普及する。
目的	シエラ地域の農業生産環境に適し、かつ高い市場性をもつ伝統的作物・家畜品種と農耕技術のインベントリーが作成評価され、かつ活用される。
成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. シエラ地域において伝統的に栽培・飼育されてきた作物及び家畜の種類及び品種のインベントリーが作成される。 2. シエラ地域において伝統的に行われてきた栽培・家畜飼養技術及び体系のインベントリーが作成される。 3. 作成されたインベントリー全項目の保存・保全状況と活用のポテンシャルが評価される。 4. インベントリーの更新及び活用のための体制がINIAP内に構築され機能する。
対象作物	ジャガイモ、メイズ、キヌア、オカ、メジョッコ、マシユア、木トマト、パパコ、リヤマ、アルパカ、施肥方法、病虫害防除、作付け体系（温作、輪作）、灌漑手法など
実施機関	INIAP及びシエラ地域内のMAGAP県事務所
実施期間	2ヶ年 14

複合プロジェクト：環境農業

プロジェクト名	小規模農業者による有機産物生産とマーケティング強化
上位目標	農業開発の代替え策として有機農業が小規模農業者の間に普及する。
目的	チンボラツソ及びトゥングラウア県において、有機農業の技術普及と有機産物の参加型認証システムが確立する。
成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県レベルの有機農業プラットフォームが確立される。 2. 有機農業プロモーターが任命され育成される。 3. プロモーターの活動を通じ、参加型技術普及システムが確立する。 4. 県レベルの参加型認証システムが確立する。 5. プロモーター及び参加型認証システムが他県に普及する。
実施機関	県農牧フォーラム環境農業分科会（MAGAP県事務所、県政府、市政府、NGO等）
実施期間	3ヶ年 15

複合プロジェクト：道の駅

プロジェクト名	チンボラソ県0000パロキア道の駅プロジェクト
上位目標	農村の農牧生産活動が活性化される。
目的	<ul style="list-style-type: none"> - 消費者と生産者の直接交流の場として休憩機能、地域情報発信機能及び地域連携機能を備えた「道の駅」がポテンシャルのある幹線道路沿いに建設される。 - 小規模農業者や農村住民の生産物が直売され、「道の駅」が参加型組織により持続的に運営される。
成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県レベルの道の駅プロジェクト委員会が県農牧フォーラムの中に設立される。 2. ポテンシャルのある「道の駅」候補が確定し、建設に必要な資金が調達される。 3. 「道の駅」プロジェクトの裨益地域が同定され、パロキアレベルの参加型運営組織が設立される。 4. 「道の駅」が建設され、直売方式にて地域産物が販売される。 5. 「道の駅」の休憩、地域情報発信及び地域連携が機能する。
実施機関	県農牧フォーラム道の駅プロジェクト委員会、該当する市及びパロキア政府
実施期間	3ヶ年 16

複合プロジェクト: アグロシルボパストラル

プロジェクト名	果レベルにおける持続的な地力維持および土壌保全のためのアグロシルボパストラル事業
上位目標	生産農家単位で農牧業活動の基盤となる地力が維持されるとともに、土壌保全される。
目的	果レベルで、生産性が低い農地で農牧業活動を行う小規模農家を対象に、地力の維持・増進および土壌保全に資する農業、牧畜業、林業を複合的に対象地域全般に導入することで、農牧生産性を維持、向上させる。
成果	<ol style="list-style-type: none">1. 関係機関とともに事業実施委員会が設立され、地力低下および土壌浸食のために生産性が低下している対象地域が明らかになる。2. 対象地域内のコミュニティおよび組織を選定し、事業実施体制が構築される。3. 対象地域内の短期・中長期にわたる、農牧林換、飼料作物、緑肥、植林、家畜飼養、土壌浸食対策工の導入方法と目標が明らかになり、短期目標を基に事業が実施される。4. 中・長期の実施体制が構築される。
支援機関	MAGAP、INIAP、県・市政府、および関連機関
実施期間	3ヶ年、プロジェクト終了以降は中・長期目標のために住民が主体となる。

Muchas Gracias.